

消 防 年 報

令和7年(2025 年)版



鎌倉市消防本部

は じ め に

この年報は、令和 7 年（2025 年）中の鎌倉市消防本部の実態を紹介するために、消防活動等のあらましを集録したものです。

統計の主なものは、令和 8 年（2026 年）4 月 1 日現在で調査しましたが火災・救急・その他一部の統計については、歴年によって表しました。

本市の消防について、ご理解いただくうえでの資料として少しでもお役にたてば幸いです。

令和 8 年（2026 年）9 月

鎌倉市消防本部

鎌倉市民憲章

昭和48年11月3日制定

前 文

鎌倉は、海と山の美しい自然環境とゆたかな歴史的遺産をもつ古都であり、わたくしたち市民のふるさとです。すでに平和都市であることを宣言したわたくしたちは、平和を信条とし、世界の国々との友好に努めるとともに、わたくしたちの鎌倉がその風格を保ち、さらに高度の文化都市として発展することを願い、ここに市民憲章を定めます。

本 文

1. わたくしたちは、お互いの友愛と連帯意識を深め、すすんで市政に参加し、住民自治を確立します。
1. わたくしたちは、健康でゆたかな市民生活をより向上させるため、教育・文化・福祉の充実に努めます。
1. わたくしたちは、鎌倉の歴史的遺産と自然及び生活環境を破壊から守り、責任をもってこれを後世に伝えます。
1. わたくしたちは、各地域それぞれの特性を生かし、調和と活力のあるまちづくりに努めます。
1. わたくしたちは、鎌倉が世界の鎌倉であることを誇りとし、訪れる人々に良識と善意をもって接します。

平和都市宣言

昭和33年8月10日

われわれは、日本国憲法を貫く平和精神に基いて、核兵器の禁止と世界恒久平和の確立のために、全世界の人々と相協力してその実現を期する。多くの歴史的遺跡と文化的遺産を持つ鎌倉市は、ここに永久に平和都市であることを宣言する。

目 次

鎌倉市の概要	1
鎌倉市消防の沿革	2 ～ 18
鎌倉市の主な火災・災害等	19 ～ 24
鎌倉市消防機構図	25
事務分掌	26
鎌倉市の消防力の整備指針・消防水利の基準	27
鎌倉市消防機関分布図	28
消防庁舎概況	29 ～ 31
〔消防総務〕	
消防費の割合・消防費歳入予算（令和8年度）	32
消防費歳出予算（令和8年度）	33
職員階級別状況	34, 35
職員の配置状況、居住区域状況	36
職員の階級別年齢、階級別勤続年数	37
職員の教養状況（過去5年間）	38
〔警防救急〕	
火災件数の推移、火災件数推移表	39
火災件数（月別）（過去5年間）	40
火災件数（原因別）（過去5年間）	41
火災件数（原因別）比較表（令和7年中）	41
火災被害状況（過去5年間）	42
救助出動状況（過去5年間）	43
消防水利統計	44
車両配置表	45, 46
車種別一覧表	46
主な消防機器の配備状況	47
消防相互応援に関する協定等	48
高層建築物等ヘリコプター緊急離着陸場等	48
救急出動の推移	49
出動件数及び市民利用度推移表	49
月別救急出動状況	50
救急事故種別の割合	50
救急出動場所状況（令和7年中）	51
時刻別救急出動状況（令和7年中）	52
時刻別救急出動件数	52
救急患者搬送状況（令和7年中）	53
年齢別搬送人員状況（令和7年中）	54
程度別搬送人員の割合	54
年齢別搬送人員の割合	54
救命講習等実施状況	55
主な救急資器材の配置状況	56
AED設置場所（公共施設）	57
AED設置場所（コンビニ）	58
救急協力事業所	59, 60

〔指令情報〕

高機能消防指令センター機器・通信機器一覧表	61
無線通信施設一覧表	62
119番受信状況 (令和7年)	63
年間気象観測データ (令和7年)	64～66

〔予防〕

査察対象物及び防火管理者選任状況	67
中高層建築物一覧表	68
建築確認申請消防同意状況 (業態別)	69
建築確認申請消防同意状況 (月別)	70
建築確認申請消防通知状況	70
建築確認申請消防通知状況 (月別)	70
危険物数量及び類別状況	71
製造所等別の許可・完成検査及び廃止届の状況	71
危険物施設管内別状況	71
文化財保有社寺防災施設	72, 73
動力消防ポンプ現有自衛消防隊一覧	74
市火災予防条例等に基づく諸届出の事務取扱状況	75

〔消防団〕

消防団現況	76
消防団員の年齢及び実員・勤続年数	77
消防団員就業状況	78
消防関係記念日・年中行事	79

鎌倉市の概要

鎌倉市は、神奈川県南東部に、また三浦半島の基部にあたり、東に逗子市、西に藤沢市、南に相模湾が開け、北は横浜市と接しています。

静かな海と緑の山々に囲まれて、その中に神社仏閣がいたるところに見られ、自然と歴史が調和された街でもあります。面積は、39.67km²

令和8年（2026年）4月1日現在の人口は、168,977人 世帯数は、77,587世帯です。



昭和14年11月3日鎌倉郡鎌倉町と腰越町が合併し鎌倉市として誕生、その後昭和23年に深沢村と大船町を加えて現在の鎌倉市となっています。

現在の鎌倉市を大きく分けると5地域に分けることができます。

海水浴場としても有名で古都鎌倉を代表する歴史的遺産が多くある鎌倉地域。

漁港地として栄え、今や住宅地に変わりつつある腰越地域。

柏尾川沿いに広がっていた田園風景が、宅地や工場地帯へと変容しつつある深沢地域。

大船駅東口を中心に商工業の活発な大船地域。

近郊農業と、首都圏へのベッドタウンとして年々人口が増加している玉縄地域といった5つの特色のある町です。

そして、長い歴史と静かな町並み、鎌倉を愛した先人達の足跡を大切に守り伝えるために、昭和41年京都・奈良と共に古都保存法を制定するなど、歴史的遺産と自然環境の保護・保全に全力をあげています。

また、『平和を信条とし、鎌倉の風格を保ち高度の文化を創造するまち』をテーマにして、昭和55年度から昭和60年度まで第1次鎌倉市総合計画を実施し、昭和61年度から平成7年度までの10年間は、第2次鎌倉市総合計画が実施されました。平成8年度から令和7年度（2025年度）までは、『古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち』を将来都市像に掲げた第3次鎌倉市総合計画が実施されました。

鎌倉市消防の沿革

年 月 日	事 項
昭和13年 8月13日	従来 of 鎌倉町消防組組織を一部改正、鎌倉町小町66番地に消防組常備消防部を設置した。（部長以下19名）
14年 4月 1日	警防団令公布により、鎌倉町警防団常備消防部と改称した。
11月 3日	鎌倉郡鎌倉町と腰越町が合併し、市制を敷く。
17年 3月 1日	腰越土橋152番地に分駐所を設置した。（班長以下6名）
20年 6月 1日	太平洋戦争の激化により本土空襲に備えて、官設消防（横浜）から消防士補以下16名の消防官と消防車2台の応援を得た。
21年10月 1日	特設消防署として、県に移管した。
22年 2月15日	特設消防署規程の改正により、常備消防部を廃止し、新たに神奈川県鎌倉消防署及び腰越出張所を開設した。人員、署長（消防士 小山太一郎）以下49名、車両、消防自動車5台・三輪消防車2台、計7台であった。
6月18日	鎌倉市消防団設置条例が制定された。
10月 1日	鎌倉市鎌倉消防団団長に中村俊雄が就任した。
23年 1月 1日	深沢村を合併し、深沢消防団団長に大木正司が就任した。
3月 7日	官設消防は、あげて自治体に移管となり、警察から独立し、鎌倉市消防本部並びに下部組織として鎌倉消防署及び腰越出張所と改称し、自治体消防として発足した。人員、消防長（初代 小山太一郎）以下72名、消防車両7台をもって業務を開始した。
4月20日	長谷出張所を長谷246番地に新設し、消防曹長以下10名、消防車両1台をもって業務を開始した。
6月 1日	大船町を合併し、大船消防団団長に山中常吉が就任した。
6月 1日	鎌倉11個分団、大船11個分団、深沢6個分団、定数1133名とした。
8月 1日	職員の階級名の改称が行われ、消防司令は「消防司令長」に、消防士・機関士は「消防司令」に、消防士補・機関士補は「消防司令補」に、消防曹長は「消防士長」に、消防手は「消防士」に改められた。
24年 8月29日	鎌倉市職員定数条例が制定され、消防機関に常時勤務する職員の定数を127人とした。

年 月 日	事 項
昭和25年 4月 1日	鎌倉市消防団を3団とし29個分団、定数770人とした。
5月 3日	大船地区火災警防のため、台638番地に大船消防署を新設し、消防司令補以下15名、消防車2台をもって業務を開始した。 腰越出張所を分署に昇格させ、分署長以下13名を配置し、業務の充実を図った。
10月25日	消防本部の機構改革を行い、次長制を廃止し、課長制をしき2課6係とした。 総務課 経理係・教養監察係・庶務係 消防課 機関係・消防係・予防係
27年 5月 1日	都市等級査定の結果、4級都市に格付けされた。
8月 1日	鎌倉市深沢消防団団長に矢沢賢一が就任した。
28年 2月20日	鎌倉市鎌倉消防団団長に小坂喜男が就任した。
3月 3日	自治体消防5周年記念に際し、本市消防本部・消防団は、国家消防本部から優良消防機関として表彰旗を授与された。
8月 1日	鎌倉消防署に救急車1台を配置して、救急業務を開始した。
8月27日	消防職員の定数は、110人となった。
29年12月 1日	深沢分遣所を常盤137番地に新設開庁した。
31年 2月 1日	鎌倉市大船消防団団長に小泉孫好が就任した。
33年 1月 7日	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、長谷出張所に配置した。
35年 4月 1日	鎌倉・大船・深沢の3団を統合し、鎌倉市消防団として発足し、初代団長に小坂喜男が就任した。
36年10月25日	消防長 小山太一郎が病没した。享年52歳。 正五位勲五等瑞宝章を追贈された。消防長職務代理者に消防課長 消防司令 矢地 翁が任命された。
11月 1日	消防司令 矢地 翁は、消防司令長に昇任し、二代目消防長に就任した。
11月27日	消防用無線電話（周波数変調式150MHz帯）を設置した。
37年 2月22日	消防本部機構を改め2課4係とした。 総務課 管理係・経理係 消防課 警防係・予防係
4月 1日	二代目消防団長に副団長 小泉孫好が就任した。
11月 1日	階級準則の改正に基づき、消防長 消防司令長 矢地 翁は消防

年 月 日	事 項
	監に就任した。
昭和37年12月 1日	腰越分署を腰越地区の都市進展状況に鑑み、腰越支所との合同庁舎に移転した。
38年 4月 1日	消防職員の定数は、113人となった。
6月 1日	深沢分遣所を出張所に昇格させ、従来2名配置（機関員のみ）を8名配置とした。
7月 1日	市長の諮問機関として消防審議会が設置され、本市消防の改善と適正な運営を図ることとし、12月14日に答申された。
39年10月11日	玉縄消防隊を玉縄地区に設置した。
12月17日	消防課長 消防司令 城田繁蔵（51歳）が執務中病没し、同日付で消防司令長に昇進し、正七位勲七等瑞宝章を追贈された。
40年 4月 1日	三代目消防団長に副団長 小磯茂夫が就任した。
	消防職員の定数は、118人となった。
41年 4月 1日	消防職員の定数は、123人となった。
11月14日	日本損害保険協会から水槽付消防車1台の寄贈を受け、長谷出張所に配置した。
42年 4月 1日	四代目消防団長に副団長 桶川長次が就任した。
	消防職員の定数は、129人となった。
5月 1日	消防課に防災主査を置き、防災事務を開始した。
5月13日	大船消防署に予備の救急車を改装して配置し、大船地区の救急業務を開始した。
6月10日	鎌倉市消防特別救助隊（レンジャー隊）が発足した。
43年 2月 6日	消防司令 勝又福三郎（47歳）が病没し、同日付で消防司令長に昇進し、正七位勲七等瑞宝章を追贈された。
4月 1日	消防職員の定数は、138人となった。
4月 8日	鎌倉市危険物安全協会が発足した。
10月 1日	消防副士長制度を採用した。
44年 4月 1日	五代目消防団長に副団長 松井四郎が就任した。
	消防職員の定数は、143人となった。
8月20日	第29分団器具置場を建設した。

年 月 日	事 項
昭和45年 3月31日	第28分団器具置場を建設した。
5月15日	大船消防賛助会が解散式を行った。
5月22日	深沢消防後援会が解散式を行った。
6月 1日	鎌倉消防賛助会が解散式を行った。
6月 2日	鎌倉消防署救助隊に救助工作車を配置し、救助活動の充実を図った。
12月 1日	鎌倉市消防団第10分団を第11分団に統合した。
46年 3月30日	第23分団器具置場を建設した。
4月 1日	消防職員の定数は、144人となった。
8月17日	救急車の従来のサイレンを廃止して、法令に基づく電子サイレン（ピー・ポー式）に改めた。
9月 2日	消防長 消防監 矢地 翁は、鎌倉市参事となり総務課付となった。消防司令長 楠山守男は、消防監に昇任し、三代目消防長に就任した。
9月17日	消防本部・消防団が防災功労団体として自治省消防庁長官表彰を受賞した。
47年 3月27日	鎌倉市地震対策部会が、鎌倉市助役 杉山誠一を部会長に委員13名をもって発足した。
4月 1日	消防職員の定数は、154人となった。
5月 1日	鎌倉市消防本部組織等規則を一部改正し、消防課を警防課に改めた。
7月 1日	消防本部の機構を一部改め、防災担当を新設し、主幹以下3名をもって事務を開始した。
7月15日	第2分団器具置場を建設した。
12月 7日	地震対策用街頭消火器としてA B C粉末消火器（6.5kg入）50本を市内に分散配置した。
12月26日	大船消防署に化学消防ポンプ自動車を配置した。
48年 4月 1日	六代目消防団長に副団長 岡田伊三郎が就任した。 消防職員の定数は、159人となった。
4月 5日	大船消防署玉縄出張所庁舎完成に伴い極楽寺3-2-9にあった消防寮を玉縄出張所庁舎に移転した。

年 月 日	事 項
昭和48年4月11日	大船消防署玉縄出張所庁舎新設とともに玉縄消防隊を玉縄出張所に昇格させ、所長以下10名を配置し、消防業務を開始した。
7月20日	台風6号の警戒のため消防車で巡回中、同乗中の団員が車両のバウンドにより転落、後頭部を強打し殉職した。同日、勲7等に叙せられ瑞宝章を授与された。なお、2階級特進し部長に昇任するとともに、鎌倉市長から消防功労章がおくられた。
8月 1日	第9分団器具置場を建設した。
9月27日	第16分団器具置場を建設した。
49年 3月30日	第27分団器具置場を建設した。
4月 1日	消防職員の定数は、177人となった。
6月 1日	第18分団器具置場を建設した。
6月10日	水害防災用としてゴムボート20隻を購入し、鎌倉消防署に5隻、大船消防署に3隻、水害多発分団に12隻を分散配置した。また、折りたたみ式ボート1隻を購入し、鎌倉消防署に配置した。
9月20日	消防本部・鎌倉消防署合同庁舎が完成した。 鎌倉消防署が新庁舎で業務を開始した。
	消防本部警防課に警防通信係を新設し、9名を配置し、通信業務を開始した。複信式救急波の割当を受けた。
9月22日	消防本部が、新庁舎に移転し、業務を開始した。
11月15日	コンピューターによる医療情報の業務を開始した。
11月25日	鎌倉消防署に梯子付消防ポンプ自動車（24m級）を配置した。
50年 1月12日	消防出初式を消防始式と改めた。
1月20日	地震時における広域避難場所17か所を鎌倉市防災会議で決定した。
3月28日	第15分団器具置場を建設した。
3月29日	第17分団器具置場を建設した。
4月 1日	警防課に消防士長以下4名を増員し、予防査察制度の一元化を図った。 鎌倉市液化石油ガス販売業者防火協力会が発足した。
11月 1日	防災担当を課制に改め防災課とし、市長部局から2名着任し2

年 月 日	事 項
	係で防災業務の強化を図った。
	消防職員の定数は、179人となった。
昭和50年12月 1日	本市特有の谷戸火災対策としてホース延長車を職員の考案により作成し、第1号車を鎌倉消防署に配置した。
12月11日	日本損害保険協会から水槽付消防車1台の寄贈を受け、鎌倉消防署に配置した。
51年 3月30日	非常警報施設の運用を開始し、防災情報伝達業務の迅速化を図った。
3月31日	第12分団器具置場を建設した。
5月29日	腰越分署に救急車を配置し、腰越地区及び深沢地区の救急業務の充実を図った。
12月27日	消防職員の定数は、191人となった。
52年 4月 1日	七代目消防団長に副団長 今村一郎が就任した。
7月15日	警防課に査察係を新設するとともに査察車1台と係長以下6名を配置し査察事務を開始した。
53年 2月17日	警防課に査察車1台を増車し、計2台を配置し査察事務の効率化を図った。
3月30日	第1分団器具置場を建設した。
4月 1日	消防職員の定数は、197人となった。
	消防団員の定数は、440人となった。
5月 1日	鎌倉消防署浄明寺出張所を新設し、消防車1台と12名を配置し業務を開始した。
11月16日	第24分団器具置場を建設した。
54年 1月 1日	消防本部組織等規則の改正に基づき、消防長 消防監 楠山守男は、消防正監に昇任した。同時に次長制をしき、総務課長が昇格し、次長兼総務課長に就任した。
4月 1日	消防職員の定数は、205人となった。
10月 8日	玉縄出張所に救急車を配置し、救急業務を開始した。
11月15日	予防課を新設し、課長以下11名を以て予防行政の充実を図った。
11月24日	第22分団の消防ポンプ車を小型動力ポンプ付積載車に切り替えたことにより、全消防分団の車両が小型動力ポンプ付積載車に切り替わった。

年 月 日	事 項
昭和54年11月27日	第13分団器具置場を建設した。
55年 4月 1日	乾式連結送水管を高台等の火災防御困難地区に設置し、消防活動の迅速化を図った。
9月18日	大船消防署新庁舎にて消防業務を開始した。 同消防署敷地内に防災備蓄倉庫第1号が完成した。
12月26日	第6分団器具置場を建設した。
56年 4月 1日	八代目消防団長に副団長 梅沢市郎が就任した。 消防職員の定数は、209人となった。
12月26日	第22分団器具置場を建設した。
57年 3月11日	大船消防署に梯子付消防ポンプ自動車（35m級）を配置した。
3月23日	深沢出張所を新築移転するとともに、分署に昇格させ、分署長以下18名を配置し、消防業務の充実を図った。同時に救急車1台を配置し、救急業務を開始した。 同分署敷地内に防災備蓄倉庫第2号が完成した。 大船消防署に特別救助隊が発足した。
4月 1日	消防職員の定数は、216人となった。
12月 5日	大船消防署台分遣所・第5分団器具置場合同庁舎を開設し、7名を配置し業務を開始した。
58年 1月 1日	救急業務記録原票をコンピューター処理に切替え、統計事務の簡素化を図った。
7月15日	アルミックス製防火衣を購入し、防火衣の整備を図った。
7月28日	消防本部に防災資機材搬送車を配置した。
9月30日	市民の震度体験とあわせて防災知識の高揚を図るため、防災課に起震車を配置し、防災業務の充実を図った。
12月 9日	第7分団器具置場を新築移転した。
59年 4月 1日	消防職員の定数は、220人となった。
8月23日	大船消防署に防災資機材搬送車を配置した。
10月 1日	浄明寺出張所に救急車を配置し、救急業務を開始した。
12月19日	第21分団器具置場を建設した。
60年 3月28日	大船消防署に多目的特殊車を配置した。

年 月 日	事 項
昭和60年 3月30日	消防長 消防正監 楠山守男が退職した。
3月31日	鎌倉市助役 磯田正一が消防長事務取扱となった。
4月 1日	次長兼総務課長 消防監 深津芳夫が消防正監に昇任し、四代目消防長に就任した。
	九代目消防団長に副団長 守屋信藏が就任した。
12月25日	第8分団器具置場を建設した。
61年 4月20日	消防本部、浄明寺出張所敷地内にコンテナ式防災備蓄倉庫を設置した。
12月26日	第20分団器具置場を建設した。
62年 1月 6日	消防始式を消防出初式と改めた。
9月 5日	日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車の寄贈を受け、深沢分署に配置した。
平成元年 4月 1日	十代目消防団長に副団長 伊藤一美が就任した。
2年 3月31日	第19分団器具置場を建設した。
5月31日	台分遣所を本市機構改革に伴い、台出張所と改称した。
12月 1日	鎌倉市医師会の協力により『救急ドクターズカー』の試行を3か月間実施した。
3年 2月28日	消防テレホンサービス業務を開始した。
4月 1日	深沢分署の消防ポンプ車更新に伴い、動力付ホースカーを装備して、消防力の充実を図った。
6月18日	総務課に緊急情報システム担当が新設された。
4年 4月 1日	第25分団器具置場を建設した。
	署長が次長級となった。
	緊急情報システムが完成し運用を開始した。
	本市消防機構改革に伴い、指令課を新設し、指令業務の充実を、警防課に機関係を新設し、機関事務の充実を図った。さらに、消防署に課制を敷き警備第一課及び警備第二課を新設し警備体制の充実を図るとともに、「分署」呼称を廃止し、全て「出張所」としたため腰越分署、深沢分署はそれぞれ出張所となった。
8月 7日	消防本部に水陸両用水難救助車を配置し、水難救助の充実を図った。
9月 3日	日本消防協会から救急車の寄贈を受け、玉縄出張所に配置した。

年 月 日	事 項
平成 4 年 12 月 28 日	大船地区の篤志家から水害対策用車両の寄贈を受け、大船消防署に配置した。
5 年 1 月 12 日	職員の高齢化対策として鎌倉・大船両消防署に高速高圧ホース洗浄器を配置した。
2 月 1 日	完全週休二日制を実施した。(毎日勤務者 4 週 8 休制、隔日勤務者 8 週 13 休制)
4 月 1 日	十一代目消防団長に副団長 田中新三が就任した。
10 月 1 日	鎌倉消防署に高規格救急自動車を配置し、救急業務の高度化を図った。
10 月 21 日	腰越出張所の消防ポンプ車更新に伴い、職員の高齢化対策としての乗車型の動力付ホースレイヤーを装備して、消防力の充実を図った。
12 月 24 日	本市初の救急救命士が誕生した。
6 年 4 月 1 日	鎌倉市医師会の協力を得て、救急救命士制度の本格的運用を開始した。
	隔日勤務職場の 4 週 8 休制を実施した。
	第 4 分団器具置場を建設した。
4 月 13 日	長谷出張所新庁舎が完成し 4 月 15 日から業務を開始した。同庁舎に防災備蓄倉庫を併設した。
9 月 1 日	「鎌倉市応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」を制定し、応急手当の正しい知識と技術の普及を図り、救命率と社会復帰率の向上に努めた。
7 年 1 月 18 日	1 月 17 日に発生した阪神・淡路大震災に鎌倉救助隊 1 隊を派遣した。
7 月 15 日	鎌倉エフエム放送(株)と業務締結し、緊急割り込み放送を行う災害緊急情報伝達装置の運用を開始した。
12 月 20 日	自治省消防庁から緊急消防援助隊旗が交付された。
8 年 4 月 1 日	市の機構改革に伴い、「係制」を廃止し、「担当制」を導入した。
	防災課を廃止し、警防課に災害対策担当を新設した。これまで防災課で行っていた防災業務を企画部に新設された総合防災課に移管し、防災業務の一部を警防課災害対策担当で行うこととした。
	消防本部次長の総務課長兼務を解き、専任とした。

年 月 日	事 項
平成 8 年 9 月 18 日	大船消防署の救急車を高規格救急自動車に更新した。
10 月 1 日	鎌倉市消防本部職員委員会が発足した。
9 年 1 月 1 日	警防課の機関担当を廃止し、警防担当及び災害対策担当の 2 担当とした。 副署長を両署に各 2 名置き、当直勤務とした。
3 月 23 日	鎌倉ライオンズクラブから投光器一式の寄贈を受け、大船消防署に配置した。
3 月 31 日	消防長 消防正監 深津芳夫が退職した。
4 月 1 日	次長 消防監 山崎博夫が消防正監に昇任し、五代目消防長に就任した。 十二代目消防団長に副団長 和田豊作が就任した。 鎌倉市消防吏員の服制等に関する規則を一部改正し、救急服を導入した。
9 月 29 日	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台の寄贈を受け、鎌倉消防署に配置した。
10 年 3 月 13 日	消防本部庁舎の耐震補強工事が完了した。
4 月 1 日	第 14 分団器具置場をたまなわ交流センター内に移転した。
11 年 1 月 1 日	緊急情報システムを更新し、コンピューターの 2000 年対応と併せて指令業務の充実強化を図った。
3 月 1 日	腰越支所・腰越出張所合同庁舎が支所移転に伴い、庁舎が消防所管となった。
3 月 15 日	聴覚障害者等の緊急連絡対策としてファックス 119 番システムを導入した。
4 月 1 日	鎌倉市消防計画を消防組織法に基づき制定した。
6 月 4 日	鎌倉市医師会から高度救急処置シミュレーター装置一式の寄贈を受け、大船消防署に配置した。
12 年 3 月 8 日	本市消防本部・消防団は、消防庁長官から優良消防機関として竿頭綬を授与された。
3 月 9 日	鎌倉消防署にはしごの使用架梯が水平以下 15 度まで可能となるバスケット装置付のはしご付消防自動車（24m 級）に更新した。
4 月 1 日	本市初の女性消防吏員が誕生した。

年 月 日	事 項
平成 12 年 6 月 12 日	鎌倉消防署に水難救助用水上オートバイを配置した。
10 月 25 日	大船消防署の耐震補強工事が完了する。
13 年 4 月 1 日	市の機構改革に伴い、消防本部で行っていた防災業務を企画部総合防災課に移管したことにより、警防課災害対策担当を廃止し、警防担当の 1 担当とした。
	十三代目消防団長に副団長 関根昇次が就任した。
14 年 3 月 27 日	第 11 分団器具置場を建設した。
7 月 9 日	第 9 分団器具置場を建設した。
15 年 1 月 29 日	深沢出張所の救急車を高規格救急車に更新した。
3 月 20 日	鎌倉市消防団は、神奈川県消防協会から優良消防機関として竿頭授を授与された。
3 月 21 日	玉縄出張所の耐震補強工事及び庁舎整備工事が完了した。
	第 13 分団器具置場を建設した。
4 月 1 日	消防本部次長兼総務課長制とした。
	再任用制度を導入した。
16 年 1 月 15 日	大船消防署にはしごの使用架梯が水平以下 15 度まで可能となるバスケット装置付のはしご付消防自動車（37m 級）に更新した。
3 月 31 日	消防長 消防正監 山崎博夫が退職した。
4 月 1 日	事務吏員 菅原俊幸が六代目消防長に就任した。
	鎌倉市消防吏員の服制等に関する規則を一部改正し、活動服を導入した。
	消防本部次長の総務課長兼務を解き、専任とした。
8 月 27 日	KDD I からの 119 番接続を行い、受信を開始した。
10 月 29 日	10 月 23 日に発生した新潟県中越地震に緊急消防援助隊（消防隊 1 隊、救急隊 1 隊、支援隊 1 隊）を派遣した。
12 月 10 日	日本テレコムからの 119 番接続を行い、受信を開始した。
17 年 2 月 1 日	本市初の気管挿管認定救急救命士が誕生した。
2 月 24 日	平成電電からの 119 番接続を行い、受信を開始した。
3 月 3 日	鎌倉大船ロータリークラブより子供用防火服 4 セットが寄贈された。

年 月 日	事 項
平成 17 年 3 月 22 日	第 29 分団器具置場を建設した。
4 月 1 日	特命担当として救急救命担当を新設し課長職 1 名、兼務担当主査 7 名を配置した。 総合防災課へ出向者 3 名を事務吏員に転任した。 消防テレホンサービスの無料化を行った。 十四代目消防団長に副団長 秋元 昭が就任した。
4 月 21 日	救急隊及び消防隊連携出場基準（P A 連携）を制定し、迅速な救急業務の向上に努めた。
6 月 28 日	N T T 東日本（I P 電話）からの 119 番接続を行い、受信を開始した。
7 月 21 日	鎌倉市医師会・病院会から自動体外式除細動器（A E D）が寄贈され、救命率と社会復帰率の向上を図った。
9 月 1 日	「非医療従事者による自動体外式除細動器（A E D）の使用について」が通知されたことにより各消防隊へ A E D を配置し、心肺停止患者の救命率の向上を図った。
9 月 7 日	携帯電話からの 119 番通報を直接受信に移行した。
9 月 28 日	玉縄出張所の救急車を高規格救急車に更新した。
10 月 1 日	各消防分団に相互通信可能な無線機を整備し、災害時の情報の共用化を図った。
11 月 30 日	第 26 分団器具置場を建設した。
12 月 20 日	消防テレホンサービス回線を 10 回線から 20 回線とした。
18 年 3 月 27 日	元本市消防職員の遺族から高規格救急車 1 台の寄贈を受け、大船消防署に配置した。
3 月 31 日	消防長 事務吏員 菅原俊幸が退職した。
4 月 1 日	事務吏員 浦 靖幸が七代目消防長に就任した。 消防本部次長兼警防課長制とした。 総務課を消防総務課に名称変更した。 指令課を廃止し、指令第一・第二担当を警防課に統合した。
18 年 4 月 1 日	腰越出張所及び浄明寺出張所の救急車を高規格救急車に更新し、全隊が、高規格救急車となり、救急救命士が同乗し、救急業務の高度化を図った。
5 月 1 日	市庁舎ほか 12 公共施設に A E D を設置し、救命率と社会復帰率の向上を図った。
7 月 12 日	鎌倉市患者等搬送事業認定基準（民間救急）を制定し、民間事業者 1 事業所を認定した。

年 月 日	事 項
平成 18 年 10 月 4 日	本市初の薬剤投与（アドレナリン）認定救急救命士が誕生した。
11 月 21 日	平成電電がソフトバンクテレコムに事業譲渡したため、119 番接続を撤去し、受信を終了する。
12 月 15 日	鎌倉市救急協力事業所標章交付基準を制定し、6 事業所を「救急協力事業所」として認定するとともに救急体制の充実を図った。
19 年 4 月 1 日	消防本部次長兼警防課長制を解き、次長兼予防課長制とした。 大船消防署今泉出張所を新設し、消防車、救急車各 1 台を配置し、消防業務を開始した。
6 月 1 日	市福祉センターほか 16 公共施設に A E D を設置し、救命率と社会復帰率の向上を図った。
7 月 17 日	「救急協力事業所」として 7 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
9 月 1 日	十五代目消防団長に副団長 内海寛士が就任した。
20 年 3 月 17 日	「救急協力事業所」として 5 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
3 月 31 日	消防長 事務職員 浦 靖幸が退職した。
4 月 1 日	大船消防署長 消防監 畑 光則が消防正監に昇任し、八代目消防長に就任した。 次長兼消防総務課長制とした。
6 月 1 日	市内 25 小中学校に A E D を設置し、救命率と社会復帰率の向上を図った。
21 年 2 月 13 日	鎌倉市消防団は、日本消防協会から優良消防機関として竿頭綬を授与された。
2 月 17 日	「救急協力事業所」として 6 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
4 月 1 日	警防課を警防救急課に名称変更し、併せて特命担当であった救急救命担当を廃止し警防救急課に統合した。 警防課指令第一・第二担当を廃止し、新たに指令情報課を新設した。 消防本部次長兼予防課長制を解いた。
7 月 1 日	パソコンや携帯電話からの E メールでの通報が可能な、E メール 119 番通報システムを導入し、消防緊急通報の充実を図った。
22 年 3 月 24 日	「救急協力事業所」として 9 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
4 月 1 日	消防職員の定数は、238 人となった。

年 月 日	事 項
平成 23 年 1 月 11 日	「救急協力事業所」として 3 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。
3 月 14 日	3 月 11 日に発生した東日本大震災に緊急消防援助隊（消防隊 1 次・2 次延べ 14 名及び救急隊 1 次～4 次延べ 15 名）を派遣した。
3 月 31 日	消防長 消防正監 畑 光則が退職した。
4 月 1 日	大船消防署長 消防監 高橋 卓が消防正監に昇任し、九代目消防長に就任した。
4 月 17 日	鎌倉消防署七里ガ浜出張所を新設し、消防車、救急車各 1 台を配置し、消防業務を開始した。
8 月 15 日	鎌倉消防署七里ガ浜出張所の開庁に伴い管轄区域の重複を解消するため鎌倉消防署長谷出張所を閉庁するとともに、由比ヶ浜海岸に面する鎌倉市消防団第 25 分団器具置場の拠点とした。
24 年 2 月 1 日	湘南東部における消防の広域連携等について、藤沢市・茅ヶ崎市・鎌倉市・寒川町の 3 市 1 町において、広域連携施策についての「覚書」を締結した。
3 月 6 日	「救急協力事業所」として 5 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。（認定合計 41 事業所）
4 月 1 日	本市機構改革に伴い、特命担当として、デジタル化整備担当を新設し課長職 1 名を配置した。 また、消防総務課経理担当を廃止し、総務担当と統合、併せて消防署の警備第一課及び警備第二課を統合し、警備課とした。
12 月 11 日	「救急協力事業所」として 18 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。（認定合計 59 事業所）
25 年 4 月 1 日	「救急協力事業所」として 34 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。（認定合計 93 事業所） 消防救急無線のデジタル化準備のため、特命担当として配置した課長職 1 名、デジタル化整備担当を配置した。 指令情報課に、デジタル整備担当を担当する日勤者 1 名を配置した。
26 年 3 月 27 日	十六代目消防団長に副団長 平井保男が就任した。
4 月 1 日	消防救急無線のデジタル化準備のため、特命担当として配置していた課長職 1 名、デジタル化整備担当を廃止した。 指令情報課に、デジタル整備担当を担当する日勤者 1 名を増員し 2 名配置とした。
10 月 1 日	人事給与制度改正のため、主査、副主査制度が廃止となった。
12 月 17 日	老朽化した腰越出張所の解体作業が完了した。

年 月 日	事 項
平成 27 年 3 月 10 日	「救急協力事業所」として 13 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 105 事業所)
3 月 31 日	消防長 消防正監 高橋 卓が退職した。 消防本部移転に合せ台出張所を閉庁した。
4 月 1 日	消防本部次長兼消防総務課長 消防監 斎藤 務が消防正監に昇任し、十代目消防長に就任した。 消防本部が、大船消防署庁舎に移転して高機能消防指令センター及び消防救急デジタル無線の運用を開始した。
28 年 2 月 15 日	逗子市消防本部と職員人事交流を行った。
3 月 28 日	「救急協力事業所」として 7 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 112 事業所)
4 月 1 日	鎌倉市消防団の組織等に関する規則を改正し、消防団本部に本団部長の役職を設けた。
11 月 30 日	消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律の施行にともない、活動服・防火衣の整備を行った。
12 月 1 日	「救急協力事業所」として 2 事業所を認定するとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 114 事業所)
29 年 3 月 1 日	腰越出張所新庁舎が完成し業務を開始した。 消防団第 22 分団器具置場を併設し、屋上は津波来襲時の緊急避難スペースとした。
4 月 1 日	十七代目消防団長に副団長 小宮幸二が就任した。 神奈川県と 2 年間の職員人事交流を行った。
7 月 31 日	湘南鎌倉総合病院と派遣型救急ワークステーションの協定を締結し運用を開始した。
8 月 1 日	市内のコンビニエンスストアに A E D を設置した。
11 月 23 日	火災による死者ゼロ 1,000 日を達成した。
30 年 4 月 1 日	消防本部次長兼指令情報課長制とした。
5 月 10 日	全国消防長会技術委員会を鎌倉市で開催した。
12 月 1 日	偵察用無人航空機（ドローン）の運用を開始した。
31 年 3 月 31 日	消防長 消防正監 斎藤 務が退職した。
4 月 1 日	鎌倉消防署長 消防監 芥川 忠が消防正監に昇任し、十一代目消防長に就任した。

年 月 日	事 項
平成 31 年 4 月 1 日	十八代目消防団長に副団長 大井勝則が就任した。 消防本部次長兼指令情報課長制を解いた。 総務省消防庁から消防団車両の無償貸与を受け第 4 分団へ配置した。
4 月 27 日	七里ガ浜出張所にレスキューボードを配置、運用を開始した。
令和元年 7 月 1 日	市立小中学校に屋外用 A E D を設置した。
2 年 1 月 10 日	N E T 1 1 9 緊急通報システムの運用を開始した。
3 月 31 日	消防長 消防正監 芥川 忠が退職した。
4 月 1 日	消防本部次長兼消防総務課長 消防監 高木 守が消防正監に昇任し、十二代目消防長に就任した。 大型免許取得奨励金制度を開始した。
10 月 1 日	女性消防職員の救急活動負担軽減のため、H A L「作業支援用ロボットスーツ」を導入した。(令和 2 年 10 月 1 日から令和 5 年 9 月 30 日まで)
3 年 2 月 15 日	東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催に伴い特殊災害対応資機材の整備を行った。
3 月 22 日	腰越出張所にレスキューボードを配置、運用を開始した。
3 月 26 日	大船消防署に支援車を配置した。
7 月 3 日	7 月 3 日に発生した、静岡県熱海市伊豆山土砂災害に、緊急消防援助隊(消火小隊、後方支援小隊、第 1 次～第 3 次延べ 23 名)を派遣した。
12 月 1 日	全救急車に自動心肺蘇生器を配置した。
4 年 2 月 2 日	「救急協力事業所」の認定をするとともに救急体制の充実を図った。(認定合計 122 事業所)
12 月 1 日	鎌倉消防署及び大船消防署に災害対応多目的車を配置した。
5 年 2 月 21 日	藤沢市消防局と職員人事交流を行った。
4 月 1 日	十九代目消防団長に副団長 宗田和弘が就任した。 消防職員の定数は、252 人となった。
8 月 1 日	深沢出張所及び玉縄出張所に災害対応多目的車を配置した。
6 年 1 月 9 日	1 月 1 日に発生した、令和 6 年能登半島地震に緊急消防援助隊(消火小隊、後方支援小隊、第 1 次～第 7 次延べ 41 名)を派遣した。

年 月 日	事 項
令和 6 年 12 月 13 日	今泉救急車に電動ストレッチャーを配置した。
7 年 3 月 3 日	2 月 26 日に発生した、岩手県大船渡市の林野火災に緊急消防援助隊（消火小隊、後方支援小隊、第 1 次～第 3 次延べ 21 名）を派遣した。
3 月 17 日	大船消防署に災害対応搬送車を配置した。
3 月 31 日	消防長 消防正監 高木 守が役職定年を迎えた。
4 月 1 日	鎌倉消防署長 消防監 高橋 浩一が消防正監に昇任し、十三代目消防長に就任した。 二十代目消防団長に副団長 安齊勘一郎が就任した。
6 月 30 日	消防職員の定数は、275 人となった。
12 月 26 日	鎌倉消防署に災害対応搬送車を配置した。
8 年 4 月 1 日	二十一代目消防団長に副団長 矢澤 茂が就任した。

鎌倉市の主な火災・災害等

昭和26年4月26日	14時30分植木の寺院から出火。1棟766㎡を全焼。 損害額3,400万円。
昭和27年1月16日	2時10分大船の撮影所から出火。1棟2,350㎡を全焼。 損害額7,500万円。
8月22日	15時45分大船の中学校から出火。3棟2,201㎡を全焼。 損害額700万円。
昭和32年9月21日	16時45分台の工場から出火。3棟609㎡を全半焼。 損害額1,100万円。
昭和33年9月27日	台風22号の来襲により死者1名、負傷者2名、家屋の全壊6棟、半壊4棟、床上浸水947棟の被害が発生。
昭和34年2月14日	5時20分大町の洋品店から出火。4棟374㎡を全半焼。 損害額1,100万円。
昭和36年6月28日	梅雨前線の発達により大雨となり、552ヶ所に崖崩れがおき、死者10名、負傷者11名、家屋の全壊42棟、半壊82棟、床上浸水2,821棟の被害が発生、6月23日から29日までの総雨量1,128mm。（36.6豪雨）
昭和37年2月26日	20時59分小町の市役所から出火。2棟1,868㎡を全焼。 損害額4,600万円。
3月21日	14時45分腰越の神社から出火。山車小屋1棟114㎡を全焼。 損害額1,300万円。
昭和40年1月13日	1時40分雪ノ下の大学から出火。3棟4,424㎡を全焼。 損害額5,500万円。
1月30日	4時16分由比ガ浜の小学校から出火。13棟3,298㎡を全焼。 損害額4,300万円。
6月27日	梅雨前線の発達により27ヶ所に崖崩れがおき、床上浸水76棟、床下浸水793棟の被害が発生、総雨量91.3mm。
9月17日	台風24号の来襲により、36ヶ所に崖崩れがおき、床上浸水44棟、床下浸水887棟の被害が発生、総雨量133.5mm。
昭和41年1月2日	2時15分長谷の病院から出火（部分焼）。死者1名。
2月6日	15時30分長谷の山林から出火。10ha焼失。
昭和41年4月11日	8時47分二階堂の小学校から出火。2棟3,241㎡を全半焼。 損害額2,800万円。

6月28日	台風4号の来襲により139ヶ所に崖崩れがおき、死者1名、負傷者13名、家屋の全壊10棟、半壊6棟、床上浸水1,763棟の被害が発生。6月27日から28日までの総雨量232mm。
9月24日	台風26号の来襲により89ヶ所に崖崩れがおき、負傷者2名、家屋の半壊28棟、床下浸水9棟の被害が発生。9月24日から25日までの総雨量71mm。
昭和42年5月7日	15時36分大船の飲食店でプロパンガスが爆発。負傷者15名。
昭和46年3月17日	11時35分二階堂の山林から出火。15ha焼失。
昭和48年11月10日	集中豪雨により155ヶ所に崖崩れがおき、死者1名、負傷者1名、家屋の全壊2棟、半壊7棟、床上浸水1,439棟、床下浸水1,577棟の被害が発生、11月9日から10日までの総雨量219mm。
昭和49年7月8日	集中豪雨により91ヶ所に崖崩れがおき、全壊1棟、床上浸水493棟、床下浸水678棟の被害が発生。7月7日から8日までの総雨量163.5mm。1時間当たりの最高雨量57.3mm。
昭和53年3月8日	2時27分小町の菓子店から出火。3棟573㎡を全焼。 損害額5,600万円。
昭和54年7月9日	0時30分大船の医院から出火。1棟134㎡を全焼。死者2名、負傷者3名。
10月19日	台風20号の来襲により57ヶ所に崖崩れがおき、負傷者1名、家屋の全壊2棟、半壊15棟、一部損壊299棟の被害が発生。10月17日から19日までの総雨量94mm。
昭和57年8月1日	台風10号の来襲により30ヶ所に崖崩れがおき、負傷者1名、家屋の一部損壊41棟の被害が発生。7月31日から8月1日までの総雨量82mm。
9月12日	台風18号の来襲により150ヶ所に崖崩れがおき、死者2名、負傷者6名、家屋の全壊7棟、半壊2棟、一部損壊34棟の被害が発生。9月10日から12日までの総雨量326mm。
昭和58年3月2日	14時25分御成町の小学校から出火。1棟888㎡を全焼。 損害額5,300万円。
3月13日	18時46分腰越の住宅から出火。死者1名・4棟310㎡を全焼。 損害額1,900万円。
10月25日	16時50分小町の病院から出火（部分焼）。死者1名。
11月18日	13時15分大船の撮影所から出火。9棟674㎡を全半焼。 損害額1,300万円。
昭和59年3月29日	3時22分極楽寺の住宅から出火。1棟89㎡を全焼。死者3名、負傷者5名。
昭和60年6月30日	台風6号の来襲により69ヶ所に崖崩れがおき、負傷者1名、家屋の全壊1棟、一部損壊118棟、床下浸水3棟の被害が発生6月29日から7月1日までの総雨量126mm。

8月2日	2時15分腰越の作業場より出火。10棟489㎡を全半焼（部分焼を含む）。 損害額3,000万円。
昭和61年2月3日	1時58分大船仲通りのストアーから出火。負傷者3名、6棟806㎡を全半焼（部分焼を含む）。損害額10,370万円。
昭和62年6月7日	材木座、由比ヶ浜、稲村ヶ崎及び腰越海岸に、電気クラゲ（カツオノエボシ）が異常発生し、その被害は、一日で救急出場が65件、搬送人員169名といった異例の事態が発生。
平成2年9月30日	台風20号の来襲により103ヶ所に崖崩れがおき、家屋の全壊6棟、一部損壊17棟、住家の床上浸水167棟、床下浸水539棟、非住家の浸水1,002棟等の被害が発生、総雨量188.5mm。
平成3年5月27日	14時09分由比ヶ浜のガソリンスタンドで掘りだした地下タンクの解体作業中に爆発。死者1名・負傷者1名。
平成8年12月27日	3時36分笛田の住宅から出火。8棟353㎡を全半焼。死者1名。 損害額2,647万円。
平成10年3月3日	17時15分岩瀬の住宅から出火。1棟全焼、5棟部分焼、死者1名、負傷者1名。 損害額2,077万円。
平成13年6月26日	3時47分大船の店舗から出火。1棟全焼、1棟ぼや。 損害額6,101万円。
平成16年1月19日	1時21分山ノ内の住宅から出火。1棟全焼、死者3名。 損害額140万円。
2月15日	23時47分浄明寺の住宅から出火。1棟全焼、負傷者1名。 損害額3,217万円。
3月17日	7時00分ころ津の住宅から出火。1棟全焼、負傷者3名。 損害額4,373万円。
10月9日・20日	台風22・23号の来襲により379ヶ所に崖崩れがおき、家屋の全壊1棟、半壊5棟、一部損壊151棟、住家の床上浸水106棟、床下浸水212棟、非住家の浸水478棟等の被害が発生した。死者1名。
平成17年5月27日	9時44分今泉台の住宅から出火。2棟全焼、2棟部分焼、3棟ぼや、負傷者1名。 損害額5,810万円。

平成18年2月21日	14時19分梶原の住宅から出火。1棟全焼、1棟部分焼、死者1名。 損害額784万円。
平成19年12月9日	10時27分玉縄の住宅から出火。1棟全焼、死者1名。 損害額141万円。
平成20年1月3日	5時47分植木の住宅から出火。2棟全焼、2棟部分焼、2棟ぼや、死者1名、負傷者2名。損害額920万円。
3月12日	11時00分長谷の住宅から出火。1棟ぼや、死者1名。 損害額0.3万円。
5月17日	9時33分山ノ内の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや、死者1名。 損害額261万円。
8月4日	10時40分大町の店舗から出火。2棟全焼、4棟ぼや。 損害額5,339万円。
8月23日	9時50分西御門の住宅から出火。1棟全焼、2棟ぼや。 損害額2,028万円。
平成21年9月26日	4時00分ころ寺分の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや。 損害額3,768万円。
12月13日	18時57分雪ノ下の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや、死者1名、負傷者2名。損害額145万円。
平成22年3月25日	9時45分雪ノ下の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや、負傷者2名。 損害額2,747万円。
12月29日	3時40分小町の住宅から出火。1棟全焼、1棟半焼、3棟ぼや、死者1名。 損害額2,382万円。
平成23年1月13日	21時52分ころ西鎌倉の住宅から出火。1棟全焼、1棟部分焼、車両1台全損、負傷者4名。損害額2,377万円。
3月17日	20時35分玉縄の住宅から出火。2棟全焼、4棟ぼや、負傷者2名。 損害額3,215万円。
平成24年10月18日	8時45分由比ガ浜の中高層建物2階から出火。2階一室部分焼、死者1名。 損害額446.9万円。
平成25年7月2日	8時10分ころ山ノ内の住宅から出火。4棟全焼、1棟ぼや、死者1名、負傷者1名。 損害額1,203万円。

平成26年1月7日	4時24分ころ浄明寺の住宅から出火。1棟半焼、負傷者3名。 損害額3,138.8万円。
2月12日	2時30分ころ材木座の住宅から出火。1棟全焼、2棟ぼや、死者1名 損害額2,349.3万円。
12月11日	10時00分ころ山ノ内の店舗併用住宅から出火。1棟全焼、負傷者1名。 損害額2,020万円。
12月18日	0時25分ころ極楽寺の住宅から出火。1棟全焼、1棟ぼや、死者1名。 損害額420.4万円。
平成27年2月26日	10時50分ころ台の住宅から出火。1棟全焼、死者1名。 損害額590.2万円。
平成28年1月30日	14時29分ころ材木座の中高層建物2階から出火。2階一室全焼。 損害額2,260.6万円。
平成30年6月6日	15時18分ころ台の住宅から出火。1棟全焼、2棟部分焼、3棟ぼや、死者1名。 損害額811万円。
平成31年3月23日	未明 植木の中高層建物3階から出火。1室部分焼、死者1名。 損害額1,195万円。
令和元年9月9日	台風15号「房総半島台風」の来襲により101箇所に崖崩れ、家屋の全壊2棟、 半壊15棟の被害が発生、総雨量191.5mm。
10月12日	台風19号「東日本台風」の来襲により12箇所に崖崩れ、家屋の全壊2棟、 半壊9棟の被害が発生、総雨量217mm。
令和2年1月22日	12時50分ころ、城廻の住宅から出火。1棟全焼、2棟ぼや、死者1名。 損害額2,425万円。
令和3年2月12日	5時53分ころ、腰越の住宅から出火。1棟全焼、負傷者1名。 損害額2,243万円。
2月28日	18時28分ころ、梶原の住宅から出火。2棟全焼、2棟ぼや。 損害額4,396万円。
11月16日	11時45分ころ、大町の共同住宅から出火。4棟全焼、2棟部分焼、1棟 ぼや、死者1名。損害額5,485.9万円
令和4年12月7日	21時20分ころ、植木の住宅から出火。1棟ぼや、死者1名。
令和5年1月25日	20時30分ころ、大船の住宅から出火。1棟部分焼、死者1名。損害額505.1万円。
2月4日	7時00分ころ、梶原の共同住宅から出火。1室ぼや、死者1名。損害額16.7万円。
3月15日	22時20分ころ、由比ガ浜の住宅から出火。1棟全焼、2棟ぼや。 損害額6,182万円

令和6年1月16日 16時45分ころ、手広の共同住宅から出火。1棟半焼、2棟ぼや、死者1名。
損害額1,621.7万円

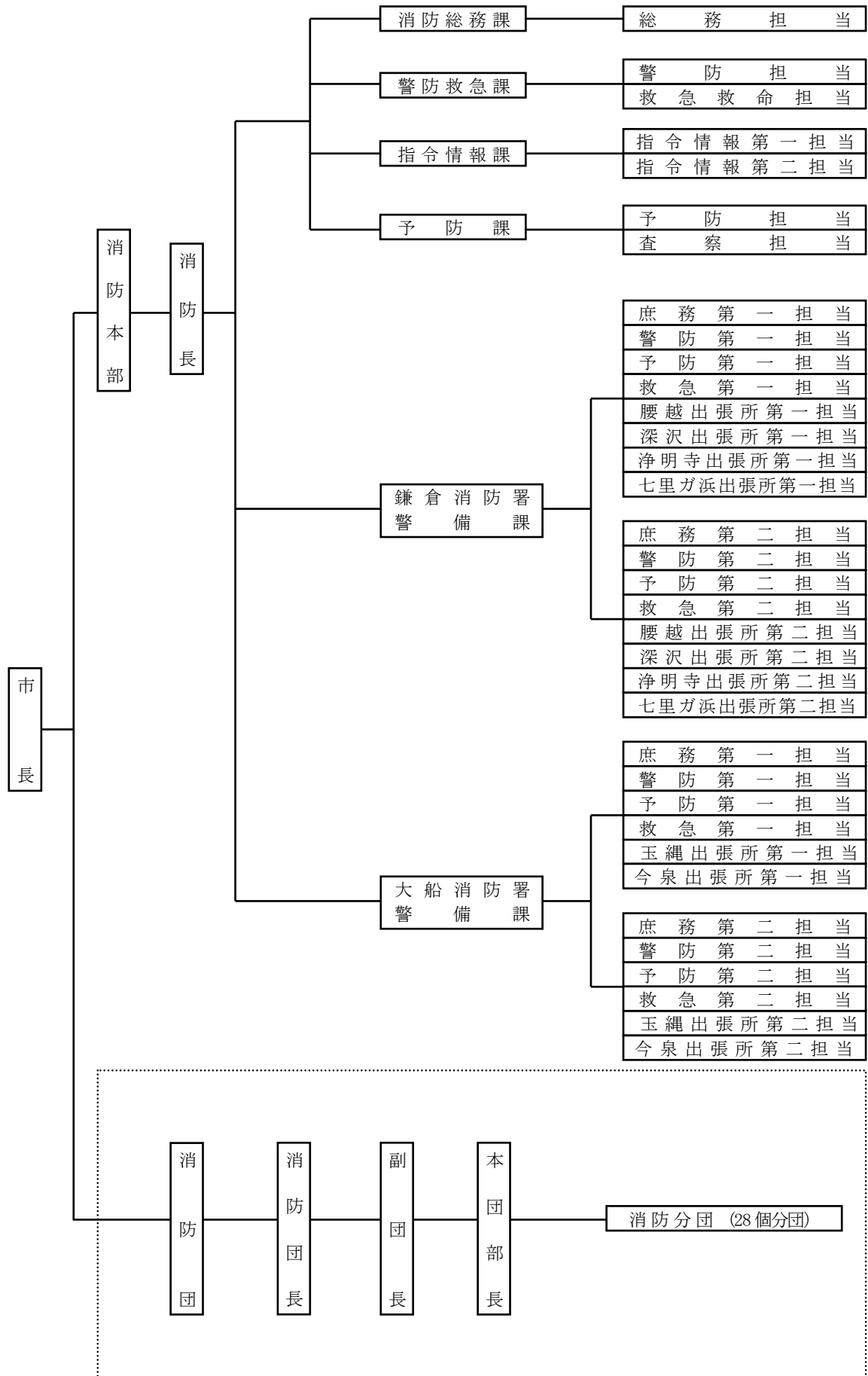
3月29日 0時00分から2時30分ころ、由比ガ浜の住宅から出火。1棟全焼、2棟部分焼、2棟
ぼや。損害額9,071.4万円

10月1日 11時55分ころ、関谷の住宅から出火。2棟全焼。損害額3,514万円

令和7年1月9日 23時45分ころ、寺分の住宅から出火。1棟全焼、5棟ぼや。損害額2038.7万円

鎌倉市消防機構図

令和8年（2026年）4月1日現在



事 務 分 掌

消防総務課	総務担当	消防事務事業に関する企画及び調整、例規の制定改廃、事務室の配置、統計資料の収集及び編さん、文書の収受及び発送、公印の管理、会議及び行事、職員の定数及び配置、職員の任免・服務・賞罰・給与及びその他人事、職員及び団員の研修及び教養、公務災害補償、職員の福利厚生共済、消防職員委員会、消防団の庶務、職員・団員及び消防協力者の表彰、消防広報 予算及び経理、国県の支出金の申請等、財産の管理及び保守、物品の調達・出納及び保管、貸与物件
警防救急課	警防担当	消防活動に関する管理、消防警防計画、水害警防管理、災害対策及び警戒警備、消防用車両の配置及び管理、消防用機械器具及び装備品の管理・研究、機関員及び安全運転管理の指導、消防・救急及び救助訓練、自衛消防隊の訓練指導の管理、消防水利の維持管理、開発事業等に対する消防上の指導、消防協定、救助活動に関する管理、火災・救助統計の作成、その他の防災及び警防救急等
	救急救命担当	救急統計の作成、救急活動に関する管理、メディカルコントロール体制の管理、応急手当の普及啓発活動
指令情報課	指令情報	高機能消防指令センターシステム機器の管理運用、災害出動隊編成、災害及び救急出動指令、災害情報の収集及び伝達（広報）、消防用無線の運用管理、災害緊急情報伝達装置の運用管理及び防災行政用無線等の運用、無線関係団体との連絡、火災警報及び消防信号、気象観測、その他指令管制業務
	第一担当 第二担当	
予防課	予防担当	火災予防計画、消防相談、火災予防関係願届、火災原因調査及び損害調査並びに危険物に係わる流出等の事故の原因の調査、消防用設備等、高圧ガス、防火及び防災管理、建築同意、危険物、鎌倉市危険物安全協会との連絡及び協調、その他火災予防
	査察担当	防火対象物の火災予防査察指導、危険物施設の火災予防査察指導、高圧ガス施設の火災予防査察指導、その他火災予防上必要な査察指導
消防署警備課	庶務	文書の収受及び発送、消防統計、職員の配置、職員の教養及び訓練、物品の管守
	第一担当 第二担当	
	警防	水火災の警戒防御、救助業務、（救急業務）、警防計画、（救急救命士業務）、警防・水防訓練、消防地水利、管区員の指導、消防機械器具の整備、消防用燃料出納記録、その他災害の警防、消防団への訓練指導、機関員指名基準の運用、自衛消防隊の訓練指導
	第一担当 第二担当	
	予防	火災（他の災害を含む）の予防対策及び指導並びに消防相談、火災原因調査及び損害調査、火災予防査察、危険物の規制、災害対策、その他災害予防
	第一担当 第二担当	
	救急	救急業務、救急救命士業務
	第一担当 第二担当	
	出張所	水火災の警戒防御、救急業務、救助業務、警防・水防訓練、消防地水利、管区員の指導、消防機械器具の整備、消防用燃料出納記録、その他災害の警防及び予防
	第一担当 第二担当	

鎌倉市の消防力の整備指針・消防水利の基準

[消防力の整備指針とは]

消防組織法第 37 条の規定に基づき、市町村の消防に必要な人員及び施設の基準として消防庁長官が勧告したものです。

鎌倉市では、地勢、道路事情、昼間人口等を勘案し、火災の予防、警戒及び鎮圧、救急業務並びに人命の救助等を行うために必要な施設及び人員を配置しています。

令和 8 年（2026 年）4 月 1 日現在

項 目	人口による 基準数	現有数
署所の数	5	8
署所の管理する消防ポンプ自動車数	8	8
消防団の管理する動力消防ポンプ数	12	28
救急自動車の数	7	8

項 目		基準数	現有数
指揮車		2	2
救助工作車		2	2
はしご自動車又は屈折はしご自動車の数		2	2
化学消防自動車の数		0	1
人員数	職員	275	262
	団員	440	399

[消防水利の基準とは]

消防法第 20 条第 1 項の規定に基づき、消防に必要な水利の基準として消防庁長官が勧告したものです。

消防水利の基準は、市町村の消防に必要な最小限度の水利について、定めることを目的としています。

令和 8 年（2026 年）4 月 1 日現在

項 目	基準数	充足数	充足率	現有数
消防水利	1,290	1,280	99.2%	3,748

鎌倉市消防機関分布図

記号	種別
⊙	本部
⊖	消防署
⊕	出張所
△	分団器具置場
—	署管轄区域
—	出張所管轄区域
.....	分団受持区域



消 防 庁 舎 概 況

鎌倉市消防本部・大船消防署（海拔 9.0m）

所 在 地 鎌倉市大船 3-5-10
 構 造 鉄筋コンクリート 3 階
 建築面積 947.80 m²
 延 面 積 2,180.09 m²
 敷地面積 2,861.09 m²
 昭和 25 年 5 月 3 日
 昭和 55 年 9 月 18 日 署移転
 平成 27 年 4 月 1 日 本部移転
 消防本部電話番号 0467(44)0119
 FAX 0467(45)6665
 大船消防署電話番号 0467(43)2424
 FAX 0467(45)6661



鎌倉消防署（海拔 6.1m）



所 在 地 鎌倉市由比ガ浜 4-1-10
 構 造 鉄筋コンクリート地上 3 階地下 1 階
 建築面積 652.33 m²
 延 面 積 2,570.19 m²
 敷地面積 1,874.49 m²
 昭和 23 年 3 月 7 日
 昭和 49 年 9 月 20 日 署移転
 昭和 49 年 9 月 22 日 本部移転
 平成 27 年 4 月 1 日 大船消防署へ本部移転
 電話番号 0467(24)0119
 FAX 0467(25)5158

鎌倉消防署 腰越出張所（海拔 4.4m）

所 在 地 鎌倉市腰越 4-9-12
 構 造 鉄筋コンクリート地上 3 階
 建築面積 263.28 m²
 延 面 積 632.99 m²
 敷地面積 490.67 m²
 昭和 23 年 3 月 7 日 設置
 昭和 25 年 5 月 3 日 分署に昇格
 昭和 37 年 12 月 1 日 移転
 平成 4 年 4 月 1 日 改称（機構改革）
 平成 29 年 3 月 1 日 改築
 電話番号 0467(32)4488
 FAX 0467(32)7174



鎌倉消防署 深沢出張所（海拔 8.5m）



所在地 鎌倉市手広 1-16-12
 構造 鉄筋コンクリート 2 階
 建築面積 651.85 m²
 延面積 954.43 m²
 敷地面積 1,502.69 m²
 昭和 29 年 12 月 1 日 分遣所として設置
 昭和 38 年 6 月 1 日 出張所に昇格
 昭和 57 年 3 月 23 日 移転 分署に昇格
 平成 4 年 4 月 1 日 改称（機構改革）
 電話番号 0467(32)4090
 FAX 0467(32)7180

鎌倉消防署 浄明寺出張所（海拔 38.3m）

所在地 鎌倉市浄明寺 6-2-7
 構造 鉄筋コンクリート 1 階
 建築面積 272.81 m²
 延面積 272.81 m²
 敷地面積 1,731.12 m²
 昭和 53 年 5 月 1 日
 電話番号 0467(25)5522
 FAX 0467(25)8122



鎌倉消防署 七里ガ浜出張所（海拔 41.0m）



所在地 鎌倉市七里ガ浜東 1-2-5
 構造 鉄筋コンクリート一部 3 階
 建築面積 204.63 m²
 延面積 491.71 m²
 敷地面積 514.60 m²
 平成 23 年 4 月 17 日
 電話番号 0467(31)0119
 FAX 0467(31)3158



大船消防署 玉縄出張所（海拔 12.4m）

所在地 鎌倉市玉縄 2-5-2
 構造 鉄筋コンクリート 2 階
 建築面積 280.54 m²
 延面積 433.54 m²
 敷地面積 738.85 m²
 昭和 48 年 4 月 11 日
 電話番号 0467 (44) 1529
 FAX 0467 (44) 6663

大船消防署 今泉出張所（海拔 23.7m）

所在地 鎌倉市今泉 2-4-25
 構造 鉄筋コンクリート 2 階
 建築面積 205.00 m²
 延面積 403.14 m²
 敷地面積 341.25 m²
 平成 19 年 4 月 1 日
 電話番号 0467 (43) 0119
 F A X 0467 (43) 0162



基地局（野村総合研究所跡地）

所在地 鎌倉市梶原 4-7
 平成 27 年 4 月 1 日



消防総務



市一般会計歳出予算に占める消防費の割合

(千 円)

区 分 \ 年 度	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
市 予 算 額	74,455,000	80,973,900	86,024,400
消 防 費	3,635,953	3,084,006	3,744,499
比 率 (%)	4.9	3.8	4.4

消 防 費 歳 入 予 算 (令和8年度)

(歳 入)

(千 円)

款	項	目	節	金 額
50 使用料及び 手数料	5 使用料	45 消防使用料	5 消防使用料	1,465
	10 手数料	15 消防手数料	5 消防手数料	439
55 国庫支出金	10 国庫補助金	45 消防費補助金	5 消防費補助金	15,081
60 県支出金	10 県補助金	45 消防費補助金	5 消防費補助金	22,545
85 諸 収 入	25 雑 入	55 消防費収入	5 雑 入	14,343
90 市 債	5 市 債	45 消 防 債	5 消防施設整備 事業債	570,600
合 計				624,473

消 防 費 歳 出 予 算 (令和8年度)

(歳 出)

(千 円)

款	項	目	節	金 額
50 消 防 費	5 消 防 費			3,744,499
		5 常備消防費		3,422,007
			1 報 酬	1,575
			2 給 料	993,184
			3 職員手当等	1,232,900
			4 共 済 費	388,253
			8 報 償 費	1,853
			9 旅 費	2,565
			10 交 際 費	100
			11 需 用 費	126,840
			12 役 務 費	19,544
			13 委 託 料	162,476
			14 使用料及び 賃 借 料	16,179
			18 備品購入費	465,485
			19 負担金補助 及び交付金	10,037
			27 公 課 費	1,016
		10 非常備消防費		95,387
			1 報 酬	46,207
			4 共 済 費	1,441
			5 災害補償費	50
			8 報 償 費	12,167
			9 旅 費	32
			10 交 際 費	30
			11 需 用 費	13,417
			12 役 務 費	977
			13 委 託 料	3,204
			14 使用料及び 賃 借 料	481
			19 負担金補助 及び交付金	16,906
			27 公 課 費	475
		15 消防施設費		227,105
			8 報 償 費	102
			12 役 務 費	77
			13 委 託 料	106,695
			14 使用料及び 賃 借 料	10,900
			18 備品購入費	100,783
			22 補償補填 及び賠償金	8,416
			27 公 課 費	132

職員階級別状況

〔昭和 23 年～令和 8 年〕

年	階級別	定数	実員数	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他の職員
昭和 23 年			72									
24		127	93		1		3	4	14		67	4
25		127	94		1		3	4	15		67	4
26		127	111		1		4	5	15		81	5
27		127	108		1		4	5	16		77	5
28		127	106		1		2	5	16		77	5
29		110	107		1		2	5	17		77	5
30		110	107		1		2	5	16		78	5
31		110	107		1		2	5	16		78	5
32		110	102		1		2	5	14		75	5
33		110	99		1		2	5	14		74	3
34		110	96		1		2	5	12		73	3
35		110	92		1		2	5	12		69	3
36		110	100		1		2	5	12		77	3
37		110	102			2	2	5	14		72	7
38		113	109		1	1	3	5	14		78	7
39		113	110		1	1	3	5	17		76	7
40		118	112		1	1	2	5	17		79	7
41		123	115		1	1	2	5	17		82	7
42		129	129		1	1	3	7	20		90	7
43		138	131		1	1	2	7	21		91	8
44		143	134		1	1	2	7	21	22	74	6
45		143	134		1	2	3	9	21	17	72	9
46		144	144		1	2	3	9	23	47	48	11
47		154	145		1	3	1	9	23	49	50	9
48		159	154		1	3	3	12	24	45	56	10
49		177	159		1	3	3	12	24	50	56	10
50		177	177		1	4	3	13	28	51	66	11
51		179	179		1	4	3	13	28	59	58	13
52		191	191		1	3	4	13	28	60	69	13
53		197	191		1	4	4	4	37	49	69	13
54		205	202	1		6	4	19	46	39	72	15
55		205	204	1	1	6	3	19	52	39	69	14
56		209	207	1	1	5	4	18	53	55	56	14
57		216	214	1		5	6	20	55	52	62	13
58		216	210	1		5	6	22	56	54	57	9
59		220	219	1	1	3	8	23	54	45	76	8
60		220	220	1		2	4	25	56	38	87	7
61		220	218	1		2	6	24	56	42	80	7
62		220	220	1		2	7	24	59	46	74	7
63		220	220	1		2	7	24	59	50	70	7
平成元年		220	220	1		3	6	24	61	57	61	7
2		220	219	1		6	3	25	63	57	47	7
3		220	220	1		6	3	25	69	71	39	6
4		220	220	1	1	7	4	33	146	13	9	6
5		220	219	1	2	6	4	32	156	5	7	6
6		220	220	1	2	6	4	36	150	5	10	6
7		220	220	1	2	6	4	44	144	3	14	3
8		220	220	1	3	10	14	38	135	11	7	1
9		220	220	1	2	13	16	38	132	13	3	2
10		220	219	1	2	13	18	39	127	14	3	2
11		220	219	1	2	13	20	41	122	14	4	2
12		220	219	1	2	13	21	46	120	8	6	2
13		220	219	1	2	13	21	47	118	6	9	2
14		220	218	1	2	13	21	47	110	9	13	2
15		220	216	1	3	12	21	51	100	12	15	1

年	階級別	定数	実員数	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他の職員
16		220	217		4	13	22	56	91	15	14	2
17		217	213		3	14	23	60	79	17	15	2
18		217	214		3	13	28	63	71	19	16	1
19		217	221		3	13	30	61	68	21	24	1
20		217	225	1	3	12	30	61	69	23	25	1
21		217	222	1	2	13	30	59	66	29	21	1
22		238	242	1	2	13	30	56	69	32	38	1
23		238	241	1	2	13	32	58	65	35	34	1
24		238	242	1	2	13	32	55	71	45	22	1
25		238	235	1	2	12	32	50	73	43	21	1
26		238	239	1	3	12	32	44	81	46	19	1
27		238	232	1	3	12	32	44	70	50	19	1
28		238	233	1	3	12	32	43	75	47	19	1
29		238	239	1	3	12	32	42	79	43	24	3
30		238	241	1	4	10	29	45	77	44	28	3
令和元年		238	246	1	3	11	26	45	84	39	36	1
2		238	245	1	3	11	25	43	85	42	34	1
3		238	247	1	3	11	26	42	89	43	31	1
4		238	256	1	3	11	24	46	84	45	41	1
5		252	248	1	3	11	23	45	84	47	33	1
6		252	254	1	3	11	24	45	87	56	26	1
7		252	250	1	3	11	19	53	76	62	24	1
8		275	262	1	3	11	21	52	83	58	32	1

- ・昭和 36 年までの消防監は、『消防監補』に読み替える。昭和 23 年 8 月 1 日消防職階名の改正までは、次のような階級が使用されていた。
- ・消防司令長（消防司令）・消防司令（消防士、消防機関士）・消防司令補（消防士補、消防機関士補）・消防士長（消防曹長）・消防士（消防手）（ ）は、旧階級名
- ・平成 19 年から初任研修者を定数外扱いとしていることから実員数が定数を上回ることがある。

職員の配置状況

令和8年(2026年)4月1日現在

階級別 区分		合 計	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	そ の 他 の 職 員
実 員		262	1	3	11	21	52	83	58	32	1
消 防 本 部	消防長	1	1								
	次 長	1		1							
	消防総務課	25				1	※ 3	4		※ 16	1
	警防救急課	6			1		2	3			
	指令情報課	14			1	4	1	7	1		
	予防課	13			1		3	7	2		
鎌倉消 防署	署 長	1		1							
	副署長	2			2						
	本 署	32			2	5	5	9	5	6	
	腰越出張所	20				1	5	6	6	2	
	深沢出張所	20				1	5	7	7		
	浄明寺出張所	20				1	5	6	6	2	
	七里ガ浜出張所	20				1	5	6	7	1	
大船消 防署	署 長	1		1							
	副署長	2			2						
	本 署	44			2	6	7	13	12	4	
	玉縄出張所	20				1	5	8	6		
	今泉出張所	20					6	7	6	1	

※ 消防総務課の消防司令補 1 名は、市民防災部総合防災課出向職員。

※ 消防総務課配置の消防士16名は神奈川県消防学校初任教育のため、定数外。

職員居住区域状況

	市 内									隣接市 (※1)	市外	計
	管 内 別											
職員内訳	鎌倉	腰越	深沢	浄明寺	七里ガ浜	大船	玉縄	今泉	小計			
消防吏員	9	16	10	2	4	19	8	6	74	89	98	261
その他の職員									0	1		1
小計	9	16	10	2	4	19	8	6	74	90	98	262

※1 隣接市とは、横浜市（戸塚区・金沢区・栄区）、藤沢市、逗子市としています。

職員の階級別年齢

令和8年(2026年)4月1現在

階級別 年齢	合計	消防 正監	消防 監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防 士	その他 の職員
平均年齢(歳)	37.0	59.0	56.6	51.6	52.9	43.3	38.5	26.3	23.3	52.0
18歳以上20歳未満	1								1	
20歳以上25歳未満	29							8	21	
25歳以上30歳未満	61						4	47	10	
30歳以上35歳未満	27						24	3		
35歳以上40歳未満	46					16	30			
40歳以上45歳未満	35				4	20	11			
45歳以上50歳未満	17			3	3	7	4			
50歳以上55歳未満	19		1	6	3	5	3			1
55歳以上	27	1	2	2	11	4	7			
合 計	262	1	3	11	21	52	83	58	32	1

職員の階級別勤続年数

令和8年(2026年)4月1日現在

階級別 年数	合計	消防 正監	消防 監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防 士	その他 の職員
平均勤続年数(年)	15.7	37.0	38.6	30.7	32.8	22.2	17.3	5.0	0.6	30.0
1年未満	17								17	
1年以上5年未満	41							26	15	
5年以上10年未満	47						16	31		
10年以上15年未満	24					5	18	1		
15年以上20年未満	49				2	15	32			
20年以上25年未満	30			3	4	20	3			
25年以上30年未満	11			2	1	4	4			
30年以上	43	1	3	6	14	8	10			1
合 計	262	1	3	11	21	52	83	58	32	1

職員の教養状況（過去5年間）								
年度別人員 教養別		合計	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
消防大学校	火災調査科	1	0	0	1	0	0	
	警防科	2	0	2	0	0	0	
	救助科	0	0	0	0	0	0	
	新任教官科	0	0	0	0	0	0	
	幹部科	4	1	1	0	1	1	
	上級幹部科	2	1	1	0	0	0	
指導救命士研修		3	0	1	1	0	1	
気管挿管実習		5	1	1	1	1	1	
救急救命士養成		9	3	2	2	1	1	
神奈川県消防学校	初任教育		51	10	17	8	12	4
	専科教育	警防科	5	1	1	1	1	1
		特殊災害科	4	0	1	1	1	1
		予防査察科	6	1	2	1	1	1
		火災調査科	9	1	2	2	2	2
		救急科	40	7	14	6	9	4
		救助科	9	1	2	2	2	2
		小型ポンプ操法	4	2	2	0	0	0
		通信指令員科	5	1	1	1	1	1
	特別教育	特別救助	1	1	0	0	0	0
		はしご操作	5	1	1	1	1	1
		幹部特別	4	1	1	0	1	1
		航空応援特別	4	1	1	1	中止	1
		救急救命士	1	1	0	0	0	0
		火災性状特別	9	1	2	2	2	2
	派遣教官		2	0	0	1	1	0

警防救急

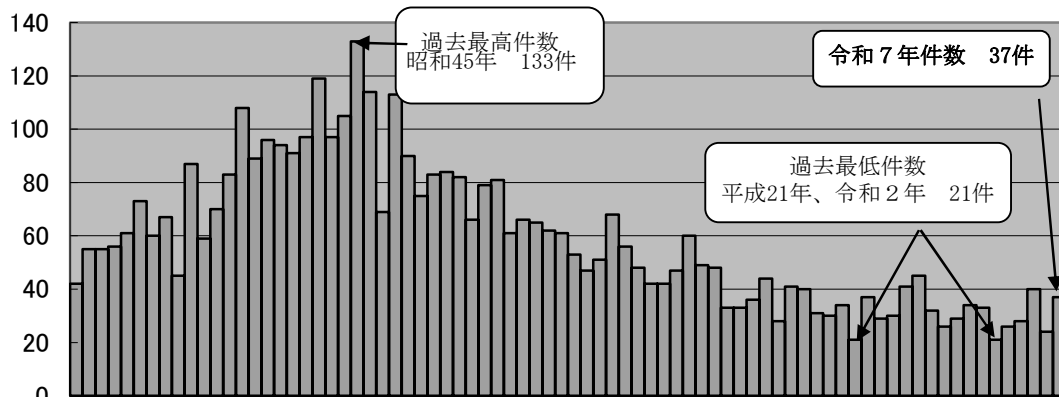


火災件数の推移

年	人口 (10月1日)	火災 件数	建物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	死 者	負 傷 者	年	人口 (10月1日)	火災 件数	建物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	死 者	負 傷 者
昭和23	84,422	42	23	5			14			62	176,358	53	38	1	6		8	2	10
24		55	34	8	2		11			63	175,995	47	37	2	2		6	2	7
25	85,392	55	30	5	1		19			平成元	175,769	51	36		4		11	3	12
26	86,923	56	37	7	1		11			2	174,307	68	39		11		18	1	12
27	88,536	61	27	9	9		16			3	174,019	56	42		2	1	11	5	12
28	90,044	73	38	18	1		16			4	173,492	48	36		6		6	1	6
29	90,916	60	36	9	7		8			5	172,638	42	30		4		8	1	6
30	91,328	67	45	10	7		5			6	171,815	42	32		3		7	2	12
31	91,756	45	29	12			4	1		7	170,329	47	30		8		9	2	7
32	92,470	87	52	22	4		9		4	8	168,569	60	38	1	7		14	5	14
33	93,874	59	33	10	7		9		8	9	167,661	49	31		8		10		12
34	95,559	70	45	8	2		15		10	10	167,136	48	33	2	5		8	6	7
35	98,617	83	47	20	6		10	1	14	11	167,627	33(1)	23(1)		6		4	2	6
36	102,352	108	66	17	5		20		11	12	167,585	33	21	1	3		8		7
37	106,591	89	51	28	7		3		7	13	167,437	36	26	1	5		4	4	10
38	110,801	96	44	40	1		11		16	14	167,693	44	39		2		3	2	11
39	116,039	94	46	27	7		14	1	5	15	168,724	28	22	1	3		2	2	2
40	118,329	91	38	25	9		19		10	16	169,866	41	33		4		4	4	9
41	120,782	97	44	31	4		18	2	5	17	171,512	40	34		3		3	1	15
42	124,770	119	64	29	6		20	2	20	18	172,784	31	27		3		1	1	11
43	129,961	97	44	29	4		20		9	19	173,263	30	23		1		6	1	5
44	135,124	105	57	15	6		27		5	20	173,439	34	31		2		1	3	12
45	139,249	133	59	31	3		40	2	9	21	174,164	21	13				8	2	5
46	143,217	114	55	20	8		31	3	18	22	174,354	37	26	1	5		5	4	18
47	148,049	69	40	7	6		16	3	11	23	174,290	29(1)	21(1)	1	2		5	1	15
48	154,533	113	69	13	8	1	22	3	24	24	174,162	30	20		1		9	1	6
49	159,870	90	69	6	4		11		20	25	173,523	41	26	1	1		13	2	13
50	165,552	75	56	2	5		12	4	19	26	173,530	45	27	3	5		10	2	13
51	168,183	83	56	5	4		18	4	13	27	173,019	32	17				15	1	4
52	170,997	84	58	6	6		14	1	12	28	172,337	26	21		2		3		10
53	172,981	82	57	2	7		16	1	6	29	172,284	29	20				9		2
54	173,331	66	41	4	2		19	2	10	30	172,306	34(1)	23(1)		3		8	1	3
55	172,629	79	47	1	5		26	6	12	令和元	172,262	33	26	2	2		3	1	12
56	173,392	81	50	6	8		17	2	5	2	172,710	21	14		1		6	1	3
57	173,850	61	44	1	12		4	2	5	3	172,772	26	16		2		8	1	7
58	174,656	66	49		12		5	3	6	4	172,428	28	19		2		7	1	3
59	175,510	65	49	1	6		9	4	11	5	171,600	40	28	1	2		9	2	14
60	175,495	62	45	6	4		7		10	6	170,206	24	15		3		6	1	7
61	175,975	61	44		10		7	2	12	7	169,530	37	26		2		9		3

()は爆発火災

火災件数推移表



火 災 件 数 (月別)

過去5年間

月	別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和7年	建物	鎌倉	5	2	1						2			
		腰越	0											
		深沢	5	1							1		3	
		浄明寺	2	1			1							
		七里カ浜	0											
		大船	10	1	1	2	1			2		1	2	
		玉縄	3		1								1	1
		今泉	1								1			
		計	26	2	5	1	2	2	0	0	2	4	1	6
	林野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和7年	車両	鎌倉	0											
		腰越	1					1						
		深沢	1			1								
		浄明寺	0											
		七里カ浜	0											
		大船	0											
		玉縄	0											
		今泉	0											
		計	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	船舶	0												
令和7年中	その他	航空機	0											
		鎌倉	1										1	
		腰越	0											
		深沢	1		1									
		浄明寺	1						1					
		七里カ浜	2											2
		大船	2	1							1			
		玉縄	0											
		今泉	2								2			
		計	9	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0	1
令和7年中	計	鎌倉	6	2	1						2		1	
		腰越	1					1						
		深沢	7	1	1	1					1		3	
		浄明寺	3	1			1		1					
		七里カ浜	2											2
		大船	12	2	1	2	1			2	1	1	2	
		玉縄	3	1									1	1
		今泉	3								3			
		計(令和7年中)	37	3	5	2	3	2	1	1	2	7	1	7
	令和6年中		24	3	4	2	2	4	2	2	2	0	1	0
	令和5年中		40	8	2	4	2	1	3	3	3	3	2	3
	令和4年中		28	1	2	6	2	3	0	0	1	1	4	1
	令和3年中		26	3	5	0	2	3	2	2	3	1	2	1

火 災 件 数 （ 原 因 別 ）

過去5年間

年 別	た ば こ	放 火 (疑い含 む)	電 気 関 係	（天ぷら油 含む） コンロ	た き び	子 ど も の 火 遊 び	ス ト ー ブ	灯 火	そ の 他	不 明 ・ 調 査 中	合 計
令和7年中	3	9	5	4	1	0	1	2	6	6	37
令和6年中	1	1	5	3	1	1	0	0	9	3	24
令和5年中	8	5	4	7	1	0	1	1	8	5	40
令和4年中	4	1	7	3	0	0	4	2	3	4	28
令和3年中	2	1	3	5	0	2	0	1	5	7	26



火 災 被 害 状 況

過去5年間

年 別		焼 損 面 積		損 害 額 (千円)						焼 損 棟 数 (棟)								り災世帯数				り 災 人 員 (人)	負 傷 者 (人)	死 者 (人)		
		建 物 (㎡)	林 野 (㎡)	建 物		林 野	車 両	船 舶	そ の 他	計	火 元				延 焼 棟				(世帯)							
				建 築 物	収 容 物						全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	計	全 損	半 損				小 損	計
令和7年中	1月	152		18,919	1,472					20,391	1			1				5	7	1		5	6	16	1	
	2月	83		14,324	275					14,599			3	2					5			3	3	4	1	
	3月				6				17	23				1					1							
	4月	144		5,287	83					5,370	1		1					3	5	1		3	4	2	1	
	5月			14	2					16				2					2			2	2	4		
	6月						150			150																
	7月																									
	8月													2					2							
	9月	65		11,857	262					12,119	1		2	1					4	1		2	3	4		
	10月	25		1,764	1,094					2,858			1						1							
	11月	390	4	17,518	3,626					21,144	2		1	3	5		1	1	13	1		2	3	7		
	12月													1					1							
		計	859	4	69,683	6,820		150		17	76,670	5		8	13	5		1	9	41	4		17	21	37	3
令和6年中		921		134,881	32,267		493		770	168,411	3	1	2	9	6		7	4	32	5		14	19	53	7	1
令和5年中		415		72,715	11,545		993		944	86,197	3		5	20			6	34	3		24	27	51	14	2	
令和4年中		393		8,304	882		1,460		4	10,650	2		4	13	1		1	1	22	1		13	14	24	3	1
令和3年中		1,830		128,657	16,608		519		11	145,793	5	2	1	8	6		3	6	31	10	2	19	31	61	7	1

救 助 出 動 状 況

過去5年間

年	事故種別 区分	建物 火災	交通 事故	水難 事故	自然 風水 災害等	機 械 による 事故	建物 等による 事故	酸ガ 欠ス 事故及び	爆発 事故	その 他の 事故	合 計
令和7 年中	出動件数	3	5	6		1				13	28
	出動人員	126	102	138		21				361	748
	救助人員	1	2	6						9	18
令和6 年中	出動件数	1	8	4		1	1			13	28
	出動人員	41	176	87		11	22			246	583
	救助人員	1	5	3		1	1			11	22
令和5 年中	出動件数	2	6	13						14	35
	出動人員	83	151	309						279	822
	救助人員	1	9	7						9	26
令和4 年中	出動件数	1	12	8		1				14	36
	出動人員	36	234	180		27				295	772
	救助人員		8	5						10	23
令和3 年中	出動件数	2	4	2				1		16	25
	出動人員	124	88	42				20		330	604
	救助人員	1	1					1		8	11

消 防 水 利 統 計

令和8年(2026年)4月1日現在

署 所 別		計	鎌倉	腰越	深沢	浄明寺	七里ガ浜	大船	玉縄	今泉
計		3,748	597	488	613	362	253	680	439	316
公設 消 火 栓	地下双口	6	4			1	1			
	地下単口	2,769	441	406	443	286	212	449	292	240
	小 計	2,775	445	406	443	287	213	449	292	240
私設 消 火 栓	地上双口	1				1				
	地上単口	36	3		4	3		25	1	
	地下双口									
	地下単口	61	6	1	8	12	2	18	12	2
	小 計	98	9	1	12	16	2	43	13	2
防 火 水 槽	公設防火水槽	294	46	47	57	29	19	35	44	17
	私設防火水槽	510	89	28	90	25	11	136	82	49
	小 計	804	135	75	147	54	30	171	126	66
そ の 他 の 水 利	貯水池	14	1	1	2	2		5	2	1
	プール	25	5	2	3	2	4	4	3	2
	井 戸	1	1							
	その他水利	27	1	1	6	1	4	8	2	4
	河 川	3		1					1	1
	海 水	1		1						
	小 計	71	8	6	11	5	8	17	8	8

	計	鎌倉	腰越	深沢	浄明寺	七里ガ浜	大船	玉縄	今泉
乾式連結 送水管	34	2	3	4	5	6	11	2	1

車 両 配 置 表

令和8年(2026年)4月1日現在

配置先	車 種	登録番号	車種	年式	ポンプ	定員	備 考
本 部	指揮統制車	横浜800つ7479	トヨタ	R3. 3		7	けん引装置付
〃	本部多目的車1	横浜480た1284	ニッサン	H27. 9		4	
〃	査察車 (1号)	横浜880あ2557	ダイハツ	H27. 1		4	
〃	査察車 (2号)	横浜800つ1971	ニッサン	H30. 1		8	
〃	指揮支援車	横浜800つ7355	ニッサン	R3. 3		8	
〃	本部多目的車2	横浜400は2530	ニッサン	H22. 3		5	
〃	本部多目的車3	横浜304せ7963	トヨタ	H27. 6		5	
鎌 倉	はしご車	横浜800は2711	ヒノ	H29. 3		6	屈折・26m
〃	ポンプ車	横浜800つ3661	ヒノ	H31. 1	A-2長野	5	電動アシスト付ホースカー積載 水槽容量1100ℓ
〃	水槽車	横浜800は2103	イスゞ	H22. 3	A-2ニッキ	6	水槽容量1500ℓ
〃	鎌倉指揮車	横浜800つ1478	ミツビシ	H29. 9		8	けん引装置付
〃	水難救助用 水上オートバイ	第235-55967	ヤマハ	R3. 8		3	
〃	トレーラー	横浜800る1080	クマテ	R3. 9			水難救助用
〃	救急車	横浜800て4188	トヨタ	R7. 10		7	高規格救急車
〃	資機材搬送車	横浜800つ1610	イスゞ	H29. 10		3	資機材搬送車 ゲートリフター最大積載量600kg
〃	救急車	横浜800ち7289	トヨタ	H27. 1		7	非常用高規格救急車
〃	災害対応 搬送車 鎌倉	横浜880あ6071	スズキ	R7. 11		2	
腰 越	ポンプ車	横浜800つ7367	ヒノ	R3. 3	A-2ニッキ	5	水槽容量700ℓ 電動アシスト付ホースカー積載
〃	救急車	横浜800つ8667	トヨタ	R4. 1		7	高規格救急車
深 沢	救助工作車	横浜800は3398	ヒノ	R8. 3	A-2ローゼン	6	水槽容量800ℓ
〃	救急車	横浜800つ7285	トヨタ	R3. 3		8	高規格救急車
〃	ポンプ車	横浜800ち1734	イスゞ	H23. 3	A-2トライ	5	非常用ポンプ車 乗車型電動式ホースカー積載
〃	災害対応 多目的車 深沢	横浜880あ5289	スズキ	R5. 7		4	
浄明寺	ポンプ車	横浜800ち8829	ヒノ	H28. 2	A-2トライ	5	水槽容量600ℓ 電動アシスト付ホースカー積載
〃	救急車	横浜800つ4718	トヨタ	R1. 9		8	高規格救急車

配置先	車 種	登録番号	車種	年式	ポンプ	定員	備 考
浄明寺	災害対応 多目的車 浄明寺	横浜880あ5074	スズキ	R4. 11		4	
七里ガ浜	ポンプ車	横浜800て160	ヒノ	R5. 2	A-2ニッキ	5	水槽容量700ℓ 電動アシスト付ホースカー積載
〃	救急車	横浜800つ3728	トヨタ	H31. 2		8	高規格救急車
〃	災害対応 多目的車 七里ガ浜	横浜880あ5073	スズキ	R4. 11		4	
大 船	はしご車	横浜800は3341	ヒノ	R7. 03		6	42m・先端屈折
〃	ポンプ車	横浜800つ8659	ヒノ	R4. 1	A-2ニッキ	5	水槽容量700ℓ 電動アシスト付ホースカー積載
〃	化学車	横浜800は2380	ヒノ	H25. 2	A-2ドライ	6	水槽容量1000ℓ 薬液容量300ℓ 電動アシスト付ホースカー積載
〃	救助工作車	横浜800は2946	ヒノ	R2. 2		6	2.9 t クレーン付
〃	大船指揮車	横浜800つ6975	トヨタ	R2. 12		4	
〃	支援車	横浜800つ7391	トヨタ	R3. 3		21	
〃	ポンプ車	横浜800ち412	ヒノ	H22. 3	A-2畠山	5	非常用ポンプ車 乗車型電動式ホースカー積載
〃	救急車	横浜800て220	トヨタ	R5. 2		7	高規格救急車
〃	救急車	横浜800つ335	トヨタ	H29. 1		7	非常用高規格救急車
〃	災害対応 搬送車 大船	横浜880あ5871	スズキ	R7. 3		2	
玉 縄	ポンプ車	横浜800ち6150	ヒノ	H26. 3	A-2野口	5	電動アシスト付ホースカー積載
〃	救急車	横浜800て1822	トヨタ	R6. 3		7	高規格救急車
〃	災害対応 多目的車 玉縄	横浜880あ5288	スズキ	R5. 7		4	
今泉	ポンプ車	横浜800つ5365	ヒノ	R2. 1	A-2ニッキ	5	水槽容量700ℓ 電動アシスト付ホースカー積載
〃	救急車	横浜800て2863	トヨタ	R6. 11		7	高規格救急車

車 種 別 一 覧 表

指揮統制車	1 台	査察車	2 台	指揮支援車	1 台
指揮車	2 台	化学車	1 台	水槽車	1 台
ポンプ車 (非常用2台を含む)	9 台	救急車 (非常用2台を含む)	10台	災害対応多目的車	4 台
救助工作車	2 台	はしご車	2 台	水難救助用オートバイ	1台
資機材搬送車等 (支援車を含む)	2 台	多目的車	3 台	水難救助用オートバイ用トレーラー	1台
		災害対応搬送車	2 台	計	4 4 台

主な消防機器の配備状況

令和8年(2026年)4月1日現在

署所別 種別		鎌倉 消防署	腰越 出張所	深沢 出張所	浄明寺 出張所	七里ガ浜 出張所	大船 消防署	玉縄 出張所	今泉 出張所	合計
泡器具等	発泡器（ビックアップ式ノズル含む）	2	1	1		1	5	1	2	13
	泡原液	スーパーフォーム		1140	20		640			1,800
		サーフウォーター		100		100	300			500
		フカダフロウウォーター						100		100
		ファイア・エイト*	140	40	100	40	100	100	40	720
		フォレックスペンS	200							200
照器具	照明装置			1			1			2
	発電機・投光器（移動式含む）	5	2	2	1	1	7	2	2	22
測定器	有毒ガス測定器（複合器）	2	1	1	1	1	4	1	1	12
	有毒ガス測定器（検知管式）	1		2			2			5
	放射線測定器			5			5			10
	ポケット線量計			5			13			18
隊保護用具	空気呼吸器	11	3	8	3	4	19	3	3	54
	酸素呼吸器			4			5			9
	化学防護服	レベルA		8			5			13
		レベルB	5	5	5	5	10	5	5	45
		レベルC	8	7	7	8	16	7	7	68
	耐電衣	4		3			7			14
	耐熱服						2			2
	放射線防護服	4		3						7
救助器具	防じんマスク	4	4	5	4	4	11	4	4	40
	防毒マスク	6	3	8	3	8	13	3	3	47
	除染シャワー	1					1			2
	救命索発射銃			1			1			2
	可搬式消火器具			2			2			4
	空気式救助マット	1					1			2
	油圧スプレッダー			1			1			2
	油圧切断機	1		1			2	1		5
	マット型空気ジャッキ			2			2			4
	エンジンカッター			1			2			3
	ガス溶断器			1			1			2
	エアーツール			1			1			2
	可搬ウインチ			1			1			2
	チェーンソー	2	1	3	1	1	3	1	1	13
	削岩機			1			1			2
	送排風機			1			2			3
	救命ボート	3	1	1	1	1	3	2	1	13
	レスキューボード		1			2				3
検索器具	画像検索機			1			1			2
	熱画像直視装置	1	1	2		1	5		1	11
	地中音響探知機			1						1
防水資器材等	つるはし	8	5	3	1	2	3	3	2	27
	大ハンマー	6	1	4	1	2	6	1	2	23
	鎌	6	12	9	3	5	3	1	2	41
	スコップ	43	17	23	9	7	35	9	10	153
	ジョレン	3	2	2	1	1	2	2	1	14
	鍬	3	1	1	1	1	1			8
	斧	3	2	2	1	1	8	3	3	23
	なた	2	1	1	1	2	1	3	2	13
	鋸	4	4	8	2	3	6	4	4	35
	ボルトカッター	4	2	5	2	1	7	1	2	24
	一輪車	2		1	1		1	1		6
	土のう袋				273	34	433	16	29	785
	土のう袋（土入り）	100	32	100	81	59	200	47	40	659
	鉄杭	100	40	48	32	10	63	84	38	415

消防相互応援に関する協定等

名 称	締結（制定）年月日	締結（制定）内容	締結（関係）先
神奈川県下消防相互応援協定	令和4年8月29日施行 (昭和50年7月25日締結)	火災やその他の災害が発生したとき、協定消防機関相互の消防力を活用し、被害を最小限度に防止することを目的とする。	県内22消防機関
神奈川県内消防広域応援実施計画	令和5年4月1日施行 〔平成2年7月31日制定の神奈川県消防広域応援基本計画については廃止〕	県内における大規模災害又は特殊災害発生による非常事態時に県及び県内消防機関が一致団結し区域を越え災害による被害を最小限に抑えることを目的とする。	県内22消防機関、神奈川県
神奈川県下消防相互応援協定に基づく航空機特別応援実施要領	令和4年2月1日 (昭和57年5月12日施行)	災害発生地の市町が他の市町による回転翼航空機を用いた消防に関する応援を要請しようとする場合に、当該応援が円滑、かつ、迅速に行われるよう要請手続きその他必要な事項について定めることを目的とする。	県内22消防機関
災害時における相互応援に関する協定	平成18年8月18日締結	姉妹都市間において、災害が発生した場合に、被災市の要請にこたえ、応急対策及び復旧対策について相互に応援することを目的とする。	長野県上田市
	平成7年9月1日締結		栃木県足利市

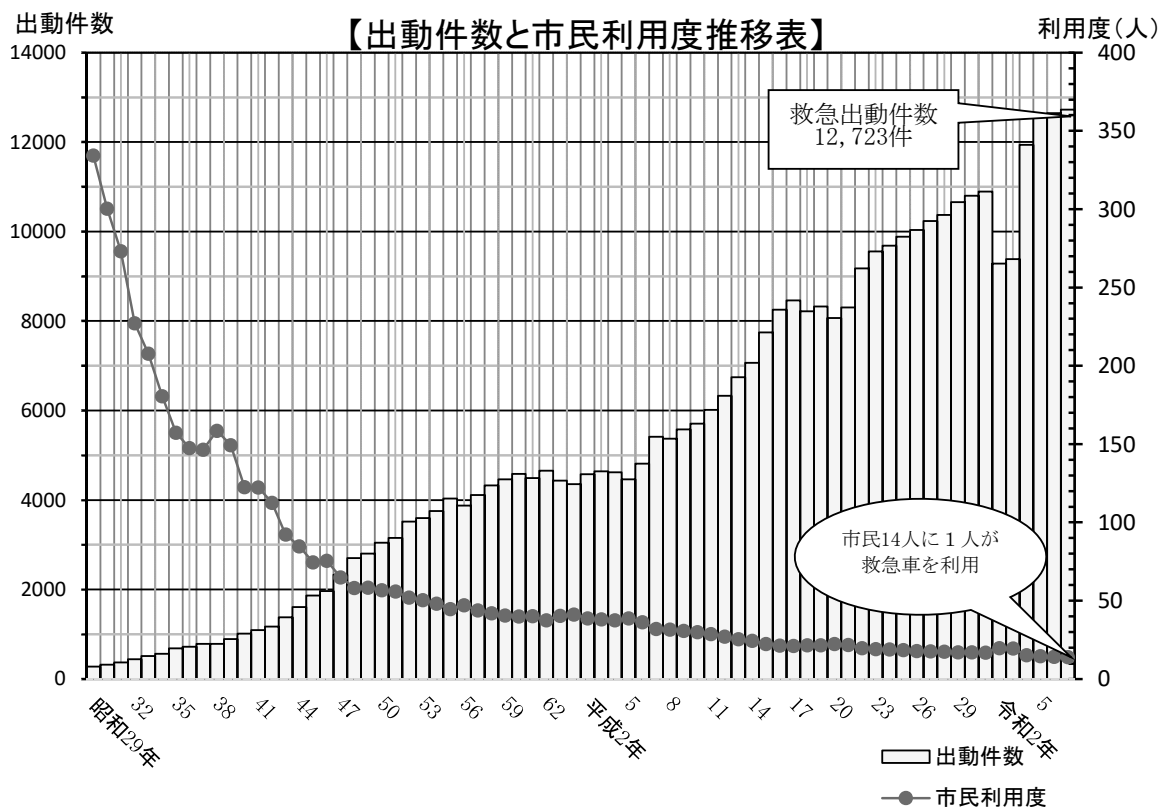
高層建築物等ヘリコプター緊急離着陸場等

令和8年(2026年)4月1日現在

建 物 名 称	緊急救助スペース
三菱電機(株)情報技術総合研究所東部第2研究棟	100 m ²
医療法人 徳洲会 湘南鎌倉総合病院	400 m ²

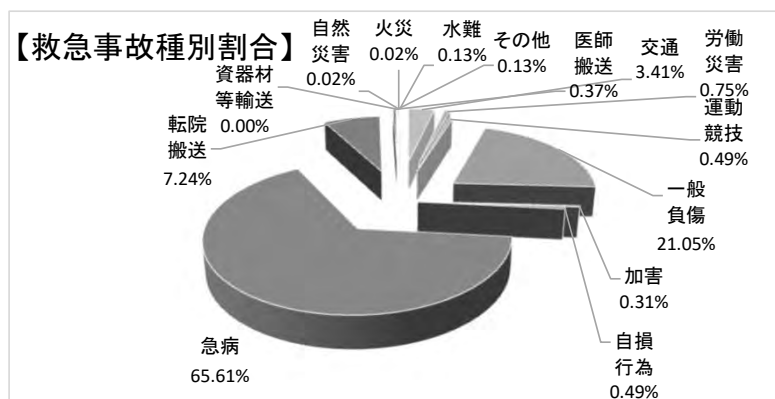
救 急 出 動 の 推 移

年	人口 (10月1日)	出動件数 (件)	搬送人員 (人)	市民利用度 (何人に1人)	年	人口 (10月1日)	出動件数 (件)	搬送人員 (人)	市民利用度 (何人に1人)
昭和29	90,916	283	272	334	2	174,307	4,578	4,495	39
30	91,328	325	304	300	3	174,019	4,644	4,570	38
31	91,756	374	336	273	4	173,492	4,617	4,608	38
32	92,470	438	407	227	5	172,638	4,460	4,445	39
33	93,874	510	452	208	6	171,815	4,812	4,731	36
34	95,559	561	529	181	7	170,329	5,415	5,313	32
35	98,617	683	627	157	8	168,569	5,368	5,320	32
36	102,352	723	694	147	9	167,661	5,577	5,455	31
37	106,591	785	728	146	10	167,136	5,707	5,567	30
38	110,801	783	699	159	11	167,627	6,016	5,835	29
39	116,039	890	777	149	12	167,583	6,329	6,157	27
40	118,329	1,011	966	122	13	167,435	6,744	6,545	26
41	120,782	1,095	987	122	14	167,630	7,069	6,872	24
42	124,770	1,174	1,109	113	15	168,724	7,746	7,506	22
43	129,961	1,379	1,408	92	16	169,866	8,255	7,947	21
44	135,124	1,607	1,593	85	17	171,158	8,459	8,107	21
45	139,249	1,868	1,869	75	18	172,820	8,218	7,969	22
46	143,217	1,968	1,894	76	19	173,263	8,325	7,998	22
47	148,049	2,327	2,282	65	20	173,439	8,070	7,713	22
48	154,533	2,705	2,653	58	21	174,164	8,302	7,952	22
49	159,870	2,799	2,737	58	22	174,314	9,179	8,787	20
50	165,552	3,043	2,918	57	23	174,250	9,552	9,134	19
51	168,183	3,152	3,008	56	24	174,162	9,687	9,212	19
52	170,997	3,515	3,289	52	25	173,523	9,886	9,392	18
53	172,981	3,594	3,426	50	26	173,530	10,037	9,629	18
54	173,331	3,751	3,605	48	27	173,019	10,232	9,757	18
55	172,629	4,030	3,854	45	28	172,337	10,368	9,857	17
56	173,392	3,875	3,675	47	29	172,284	10,656	10,032	17
57	173,850	4,111	3,964	44	30	172,306	10,798	10,097	17
58	174,656	4,327	4,156	42	令和元年	172,262	10,896	10,185	17
59	175,510	4,463	4,330	41	2	172,710	9,287	8,746	20
60	175,495	4,586	4,429	40	3	172,772	9,387	8,835	20
61	175,975	4,492	4,385	40	4	172,428	11,935	11,276	15
62	176,358	4,653	4,696	38	5	171,600	12,588	11,782	15
63	175,995	4,433	4,347	40	6	170,206	12,648	11,867	14
平成元年	175,769	4,354	4,273	41	7	169,530	12,723	11,867	14



月別救急出動状況
(令和7年)

事故種別 月		火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	転院 搬送	医師 搬送	資器材 等輸送	その他	合 計
1月	出動件数	1			30	7	6	228	3	1	742	139				1,157
	搬送人員	1			29	7	6	211	3	1	691	138				1,087
2月	出動件数	1			20	5	4	227	2	3	665	127				1,054
	搬送人員				20	5	3	209	1	3	620	126				987
3月	出動件数				39	7		215	1	5	694	109			3	1,073
	搬送人員				39	7		198	1	5	639	109				998
4月	出動件数			1	51	7	4	226	2	9	638	54	5		1	998
	搬送人員			1	51	7	4	213	2	7	598	53				936
5月	出動件数		1	2	41	6	10	191	4	8	620	51	4		1	939
	搬送人員		1	2	38	6	10	186	3	5	586	51				888
6月	出動件数			3	31	7	9	231		6	638	46	1		3	975
	搬送人員			3	31	7	9	222		3	599	46				920
7月	出動件数			1	42	18	8	233	9	5	805	76	10		3	1,210
	搬送人員			1	45	18	8	218	9	2	746	76				1,123
8月	出動件数			3	44	15	5	223	4	6	785	53	7		1	1,146
	搬送人員			2	44	15	5	207	4	6	721	53				1,057
9月	出動件数	1		3	32	6	3	192	1	7	693	58	1		1	998
	搬送人員				28	6	3	183	1	7	649	58				935
10月	出動件数			2	41	9	4	236	5	5	655	71	9		1	1,038
	搬送人員			1	42	9	4	218	4	4	618	71				971
11月	出動件数			1	30	5	2	240	6	1	690	77	5			1,057
	搬送人員			1	30	5	2	225	6	1	635	77				982
12月	出動件数		1		33	3	7	236	2	6	723	60	5		2	1,078
	搬送人員		1		31	3	7	221	2	4	654	60				983
合 計	出動件数	3	2	16	434	95	62	2,678	39	62	8,348	921	47		16	12,723
	搬送人員	1	2	11	428	95	61	2,511	36	48	7,756	918				11,867



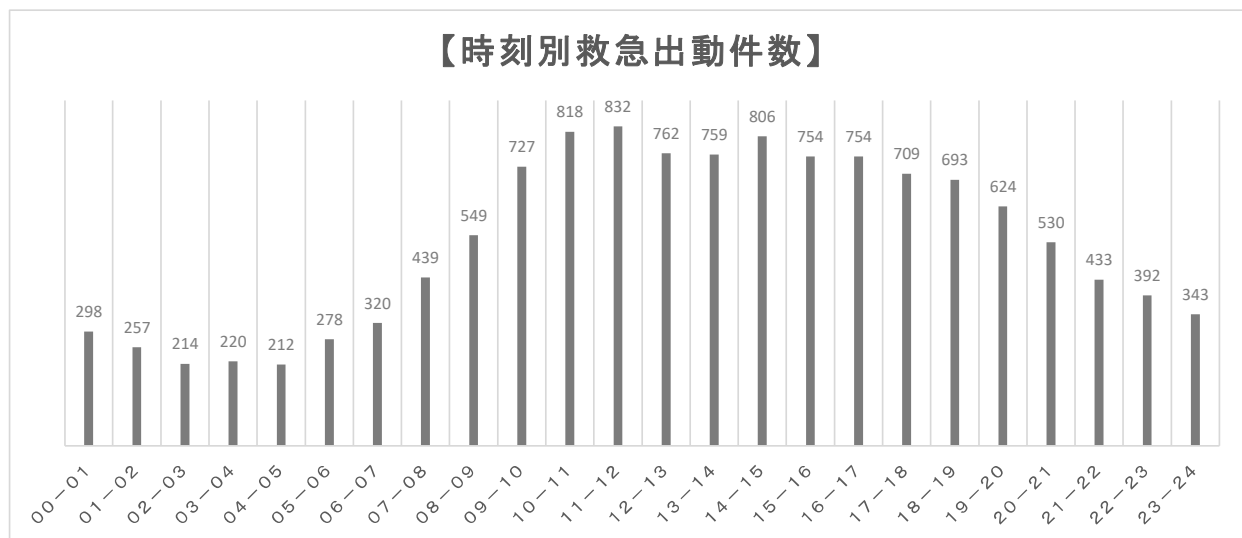
救急出動場所状況

(令和7年)

地区別 区分	出動件数		搬送件数		搬送人員	
	件数	比率(%)	件数	比率(%)	人員数	比率(%)
稲村ガ崎	246	1.9%	227	1.9%	228	1.9%
今泉	184	1.4%	177	1.5%	177	1.5%
今泉台	284	2.2%	262	2.2%	262	2.2%
岩瀬	436	3.4%	398	3.4%	398	3.4%
植木	227	1.8%	216	1.8%	216	1.8%
扇ガ谷	128	1.0%	117	1.0%	117	1.0%
大船	1,549	12.2%	1,397	11.8%	1,399	11.8%
大町	272	2.1%	243	2.1%	244	2.1%
岡本	802	6.3%	778	6.6%	778	6.6%
御成町	222	1.7%	213	1.8%	215	1.8%
梶原	362	2.8%	338	2.9%	342	2.9%
上町屋	243	1.9%	239	2.0%	240	2.0%
腰越	537	4.2%	506	4.3%	508	4.3%
小袋谷	167	1.3%	151	1.3%	151	1.3%
小町	476	3.7%	431	3.6%	432	3.6%
極楽寺	126	1.0%	121	1.0%	121	1.0%
坂ノ下	90	0.7%	87	0.7%	87	0.7%
笹目町	28	0.2%	27	0.2%	27	0.2%
佐助	76	0.6%	68	0.6%	68	0.6%
材木座	408	3.2%	379	3.2%	379	3.2%
七里ガ浜	145	1.1%	125	1.1%	125	1.1%
七里ガ浜東	300	2.4%	282	2.4%	283	2.4%
城廻	224	1.8%	218	1.8%	218	1.8%
十二所	121	1.0%	113	1.0%	116	1.0%
浄明寺	201	1.6%	186	1.6%	186	1.6%
関谷	263	2.1%	262	2.2%	263	2.2%
玉縄	243	1.9%	238	2.0%	238	2.0%
台	536	4.2%	500	4.2%	500	4.2%
津	201	1.6%	194	1.6%	195	1.6%
津西	131	1.0%	123	1.0%	124	1.0%
手広	297	2.3%	267	2.3%	268	2.3%
寺分	262	2.1%	250	2.1%	250	2.1%
常盤	238	1.9%	214	1.8%	216	1.8%
二階堂	181	1.4%	173	1.5%	173	1.5%
西鎌倉	201	1.6%	186	1.6%	187	1.6%
西御門	40	0.3%	38	0.3%	38	0.3%
長谷	272	2.1%	255	2.2%	257	2.2%
笛田	451	3.5%	392	3.3%	392	3.3%
山崎	394	3.1%	373	3.2%	375	3.2%
山ノ内	271	2.1%	251	2.1%	252	2.1%
由比ガ浜	400	3.1%	362	3.1%	364	3.1%
雪ノ下	281	2.2%	267	2.3%	268	2.3%
鎌倉山	158	1.2%	145	1.2%	146	1.2%
高野	39	0.3%	37	0.3%	37	0.3%
管轄外	10	0.1%	7	0.1%	7	0.1%
合計	12,723	100.0%	11,833	100.0%	11,867	100.0%

時刻別救急出動状況 (令和7年)

時刻別 事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				合 計
											転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他	
00-01					2		66	3	1	203	22			1	298
01-02				3			46	4	1	183	19			1	257
02-03							31	2		172	9				214
03-04							40	3		166	11				220
04-05				3			25		4	173	6			1	212
05-06				5	2		40	1	1	224	5				278
06-07			1	8			58		2	246	5				320
07-08				14			103		1	320				1	439
08-09			4	26	2	3	124	3	2	374	11				549
09-10				26	7	7	158		3	486	34	3		3	727
10-11				38	8	8	168	1	5	495	87	7		1	818
11-12			1	27	15	8	193	1	2	484	95	5		1	832
12-13	1	1		24	4	5	162		1	477	78	9			762
13-14			1	29	7	2	153		4	478	83	2			759
14-15	1	1	2	35	14	3	194	1	6	484	59	6			806
15-16			1	35	8	8	174	2	4	452	61	9			754
16-17			1	35	14	1	190	2	5	434	65	6		1	754
17-18	1			35	1	7	153	1	6	428	77				709
18-19			2	37	4	7	150	1	2	446	44				693
19-20			1	18	2	1	123	5	2	432	38			2	624
20-21				15	4	1	118	1	2	351	36			2	530
21-22				8	1	1	77	3	2	311	29			1	433
22-23			2	7			67	3	6	286	21				392
23-24				6			65	2		243	26			1	343
合 計	3	2	16	434	95	62	2,678	39	62	8,348	921	47		16	12,723



救急患者搬送状況

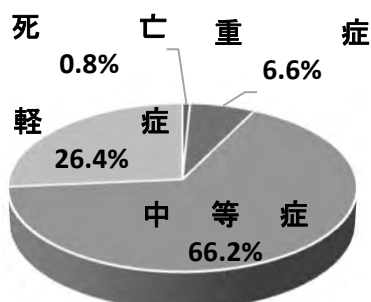
(令和7年)

区 分		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計	
傷 病 程 度	死 亡	0	0	2	4	0	0	7	0	3	74	1	91	
	重 症	0	0	3	10	4	0	37	0	13	609	111	787	
	中 等 症	1	1	4	217	54	34	1,557	21	23	5,182	761	7,855	
	軽 症	0	1	2	197	37	27	910	15	9	1,891	45	3,134	
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
収 容 医 療 機 関	市 内	湘南鎌倉総合病院	1	1	10	322	67	51	1,879	32	46	6,190	365	8,964
		大船中央病院	0	0	1	35	12	4	290	1	2	871	63	1,279
		湘南記念病院	0	0	0	13	2	1	70	1	0	118	16	221
		鎌倉ヒロ病院	0	1	0	7	2	0	26	0	0	16	3	55
		清川病院	0	0	0	1	1	0	11	0	0	32	10	55
		ふれあい鎌倉ホスピタル	0	0	0	5	6	0	40	1	0	133	13	198
		鎌倉病院	0	0	0	19	1	2	64	0	0	21	2	109
		鈴木病院	0	0	0	1	0	0	7	0	0	51	5	64
		その他の病医院(接骨院等含む)	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	1	6
	市 外	湘南藤沢徳洲会病院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	15	25	41
		藤沢市民病院	0	0	0	2	1	1	12	0	0	83	69	168
		藤沢脳神経外科病院	0	0	0	20	1	1	72	1	0	34	13	142
		横浜栄共済病院	0	0	0	2	2	1	29	0	0	103	77	214
		国立病院機構横浜医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	35	49
		横浜南共済病院	0	0	0	1	0	0	1	0	0	11	9	22
		済生会横浜市南部病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	14	20
		横浜市立大学付属病院(福浦)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	13	15	29
		横浜市大センター病院(浦舟)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	7	16
		県立こども医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	16	18
		葉山ハートセンター	0	0	0	0	0	0	2	0	0	7	10	19
		市外その他の病医院	0	0	0	0	0	0	3	0	0	25	150	178
搬 送 人 員 合 計		1	2	11	428	95	61	2,511	36	48	7,756	918	11,867	

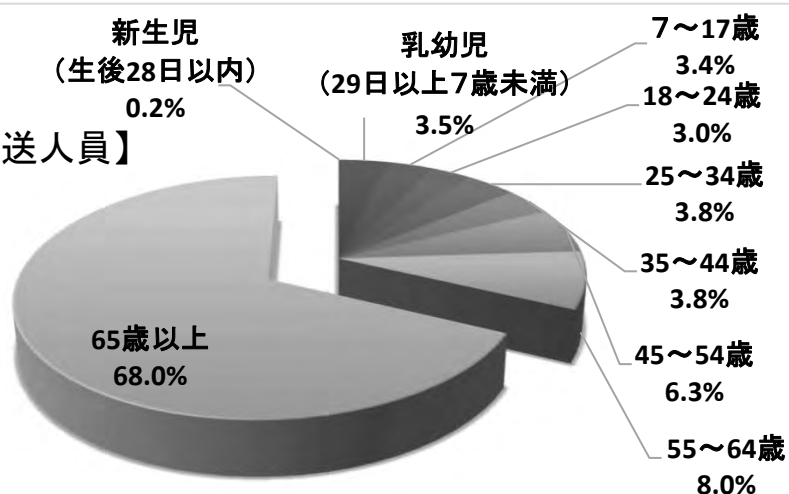
年齢別搬送人員状況 (令和7年)

事故種別 年齢別	火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	その他		合 計
											転院 搬送	その他	
新生児 (生後28日以内)										1	18		19
乳幼児 (29日以上7歳未満)			1	8			93			265	52		419
7～17歳			1	50	2	48	51	2	8	223	22		407
18～24歳			1	47	9	3	38	3	15	234	8		358
25～34歳			1	29	10	4	44	3	5	323	34		453
35～44歳			2	35	8		47	6	8	321	19		446
45～54歳			1	75	24	2	108	13	3	478	38		742
55～64歳				78	19	2	165	4	3	621	61		953
65歳以上	1	2	4	106	23	2	1,965	5	6	5,290	666		8,070
合 計	1	2	11	428	95	61	2,511	36	48	7,756	918		11,867

【程度別搬送人員】



【年齢別搬送人員】



救命講習等実施状況

区分	普通救命講習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		上級救命講習		救命入門コース		合 計	
	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
6年中～17年中	591	13,391	27	627			450	10,476
18年中	138	3,069	3	88			141	3,157
19年中	152	3,446	11	308			163	3,754
20年中	146	3,704	13	346			159	4,050
21年中	123	3,068	10	287			133	3,355
22年中	150	4,187	10	260			160	4,447
23年中	156	3,961	10	275			166	4,447
24年中	139	3,940	7	187	14	405	160	4,532
25年中	156	4,080	6	137	24	601	186	4,818
26年中	142	3,819	7	156	16	379	165	4,354
27年中	133	3,512	7	135	20	445	160	4,092
28年中	133	3,451	6	115	23	549	162	4,115
29年中	128	3,288	8	135	19	446	155	3,869
30年中	138	3,436	8	155	21	576	167	4,167
元年中	108	2,942	8	147	29	662	145	3,751
2年中	4	41	1	18	0	0	5	59
3年中	8	96	0	0	0	0	8	96
4年中	38	362	0	0	0	0	38	362
5年中	59	920	3	33	8	214	70	1,167
6年中	72	1,116	6	114	15	308	93	1,538
7年中	86	1,369	5	87	7	440	98	1,896
合 計	2,800	67,198	156	3,610	196	5,025	2,984	72,502

救命の連鎖



予防

早期認識と通報

一次救命処置

二次救命処置と
心肺再開後の集中治療

急変した傷病者を救命し、社会復帰するために必要となる一連の行為を「救命の連鎖」と言います。
「救命の連鎖」を構成する4つの輪が迅速につながると救命の効果が高まります。

※ 平成24年度から小児・乳幼児に対応した普通救命講習Ⅲを実施しています。

※ 令和2年から令和4年は、新型コロナウイルス感染症まん延に伴い、すべての救命講習が従来通り開催できませんでした。

主な救急資器材の配置状況

令和8年(2026年)4月1日現在

署 所 別		鎌倉	腰越	深沢	浄明寺	七里ガ浜	大船	玉縄	今泉
観 察 用 資 器 材	除細動器(AED)	3	2	2	2	2	4	2	2
	患者モニター	2	1	1	1	1	2	1	1
	パルスオキシメーター	2	1	1	1	1	2	1	1
呼 吸 循 環 管 理 資 器 材	人工呼吸器(手動)	3	2	2	2	2	4	2	2
	人工呼吸器(自動)	2	1	1	1	1	2	1	1
	自動心肺蘇生器	2	1	1	1	1	2	1	1
	携帯用吸引器	2	1	1	1	1	2	1	1
	喉頭鏡	3	2	2	2	2	3	2	2
固 定 搬 送 用 資 器 材	減圧式固定具	2	1	1	1	1	2	1	1
	頸部固定具	2	1	1	1	1	2	1	1
	全身固定ボード	3	1	2	1	1	3	1	1
	小児用全身固定器具							1※	
特 定 行 為 等 資 器 材	輸液セット	2	1	1	1	1	2	1	1
	食道閉鎖式エアウェイ等	2	1	1	1	1	2	1	1
	気管挿管セット	2	1	1	1	1	2	1	1
そ の 他 の 資 器 材	リングカッター	2	1	1	1	1	2	1	1
	トリアージシート	1		1			1		
	防刃ベスト	6	3	3	3	3	6	3	3
	腰痛防止ベルト	10	4	5	6	9	9	6	6
	心肺蘇生訓練人形	13	1	10	1	1	18	1	1

※小児用全身固定器具は、全身固定ボードに併用し使用します。

AED設置場所（公 共 施 設）

令和8年(2026年)4月1日現在

1	鎌倉市役所1階ロビー	28	台在宅福祉サービスセンター	55	放課後子どもひろばいなむらがさき・鎌倉市いなむらがさき子どもの家(いなほ)
2	鎌倉市役所2階議会事務局	29	鎌倉市立第一小学校	56	放課後子どもひろばだいいち・鎌倉市だいいち子どもの家(うみがめ)
3	大船行政センター	30	鎌倉市立第二小学校	57	放課後子どもひろばおなり・鎌倉市おなり子どもの家(こばと)
4	玉縄行政センター	31	鎌倉市立御成小学校	58	放課後子どもひろばしちりがはま・鎌倉市しちりがはま子どもの家(なみのね)
5	深沢行政センター	32	鎌倉市立稲村ヶ崎小学校	59	放課後子どもひろばこしごえ・鎌倉市こしごえ子どもの家(かもめ)
6	腰越行政センター	33	鎌倉市立七里ガ浜小学校	60	放課後子どもひろばにしかまくら・鎌倉市にしかまくら子どもの家(こまどり)
7	鎌倉生涯学習センター	34	鎌倉市立腰越小学校	61	放課後子どもひろばふかさわ・鎌倉市ふかさわ子どもの家(すずめ)
8	中央図書館	35	鎌倉市立西鎌倉小学校	62	放課後子どもひろばふじづか・鎌倉市ふじづか子どもの家(かなりや)
9	鎌倉体育館	36	鎌倉市立深沢小学校	63	放課後子どもひろばやまさき・鎌倉市やまさき子どもの家(めじろ)
10	大船体育館	37	鎌倉市立富士塚小学校	64	放課後子どもひろばおおふな・鎌倉市おおふな子どもの家(つばめ)
11	鎌倉武道館	38	鎌倉市立山崎小学校	65	放課後子どもひろばおさか・鎌倉市おさか子どもの家(ひばり)
12	鎌倉芸術館	39	鎌倉市立小坂小学校	66	放課後子どもひろばいまいずみ・鎌倉市いまいずみ子どもの家(うぐいす)
13	鎌倉市福祉センター	40	鎌倉市立玉縄小学校	67	放課後子どもひろばたまなわ・鎌倉市たまなわ子どもの家(うさぎ)
14	鎌倉市教養センター	41	鎌倉市立植木小学校	68	放課後子どもひろばうえき・鎌倉市うえき子どもの家(さわがに)
15	名越やすらぎセンター	42	鎌倉市立関谷小学校	69	放課後子どもひろばせきや・鎌倉市せきや子どもの家(やまゆり)
16	今泉さわやかセンター	43	鎌倉市立大船小学校	70	由比ガ浜こどもセンター
17	玉縄すこやかセンター	44	鎌倉市立今泉小学校	71	深沢こどもセンター
18	腰越なごやかセンター	45	鎌倉市立第一中学校	72	玉縄こどもセンター
19	鎌倉中央公園	46	鎌倉市立第二中学校	73	鎌倉市立由比ガ浜中学校
20	見田記念体育館	47	鎌倉市立御成中学校	74	川喜多映画記念館
21	たまなわ交流センター	48	鎌倉市立腰越中学校	75	笛田リサイクルセンター
22	玉縄青少年会館	49	鎌倉市立深沢中学校	76	今泉クリーンセンター
23	鎌倉青少年会館 (フレンドリー鎌倉)	50	鎌倉市立手広中学校	77	大船消防署
24	鎌倉文学館	51	鎌倉市立大船中学校	78	鎌倉消防署
25	鎌倉国宝館	52	鎌倉市立玉縄中学校	79	教育支援教室ひだまり
26	鎌倉海浜公園プール	53	鎌倉市立岩瀬中学校	80	あおぞら園
27	鍋木清方記念美術館	54	放課後子どもひろばにかいどう・鎌倉市にかいどう子どもの家(めだか)	81	

小・中学校は各2台ずつAEDを設置しています。公共施設にAEDは計105台設置しています。



AED設置場所（コンビニ）

令和8年(2026年)4月1日現在

1	ミニストップ鎌倉十二所店	29	ローソン鎌倉岩瀬店
2	ミニストップ鎌倉手広店	30	ローソン大船中学校南店
3	ファミリーマート鎌倉雪ノ下店	31	ローソン鎌倉富士見町駅前店
4	ファミリーマート鎌倉駅東口店	32	ローソン鎌倉鎌倉手広店
5	ファミリーマート鎌倉二の鳥居店	33	ローソン・スリーエフ鎌倉由比ガ浜店
6	ファミリーマート鎌倉御成町店	34	ローソン・スリーエフ北鎌倉店
7	ファミリーマート鎌倉駅西口店	35	ローソンスリーエフ鎌倉台店
8	ファミリーマート鎌倉長谷店	36	セブン・イレブン鎌倉小町2丁目店
9	ファミリーマート鎌倉津店	37	セブン・イレブン鎌倉観音前店
10	ファミリーマート鎌倉植木店	38	セブン・イレブン鎌倉稲村が崎店
11	ファミリーマート大船駅前店	39	セブン・イレブン鎌倉七里ガ浜店
12	ファミリーマート大船駅東口店	40	セブン・イレブン鎌倉津西店
13	ファミリーマート大船仲通店	41	セブン・イレブン鎌倉深沢店
14	ファミリーマート大船一丁目店	42	セブン・イレブン鎌倉山崎店
15	ファミリーマート大船二丁目店	43	セブン・イレブン鎌倉湘南町屋駅前店
16	ファミリーマート大船谷戸之前店	44	セブン・イレブン鎌倉手広西店
17	ローソン鎌倉小町一丁目店	45	セブン・イレブン鎌倉常盤店
18	ローソン鎌倉名越店	46	セブン・イレブン鎌倉市役所通り店
19	ローソン鎌倉由比ガ浜大通り店	47	セブン・イレブン鎌倉玉縄店
20	ローソン鎌倉坂ノ下店	48	セブン・イレブン鎌倉城廻東店
21	ローソン西鎌倉二丁目店	49	セブン・イレブン鎌倉城廻店
22	ローソン鎌倉梶原店	50	セブン・イレブン鎌倉大船2丁目店
23	ローソン大船駅西口店	51	セブン・イレブン鎌倉小袋谷店
24	ローソン鎌倉玉縄一丁目店	52	セブン・イレブン鎌倉大船6丁目店
25	ローソン鎌倉台四丁目店	53	セブン・イレブン鎌倉岩瀬店
26	ローソン大船一丁目店	54	セブン・イレブン鎌倉岩瀬北店
27	ローソン鎌倉大船二丁目店	55	セブンイレブン鎌倉小町通り店
28	ローソン大船四丁目店	56	セブンイレブン鎌倉富士見町店

救急協力事業所



鎌倉市消防本部

救急協力事業所

消防本部では、救急事案が発生した場合に消防機関への通報やAED(自動体外式除細動器)を用いた心肺蘇生法などの適切な応急手当、救急隊への支援・協力を積極的に行うことができる事業所を認定しています。

令和8年(2026年)4月1日現在

1	カドキホール	36	株式会社鎌倉ファミリー
2	鎌倉スポーツクラブ	37	鎌倉乃えん
3	鎌倉女子大学大船キャンパス	38	神奈川県鎌倉保健福祉事務所
4	鎌倉女子大学岩瀬キャンパス	39	清泉小学校
5	湘南モノレール大船駅	40	特養 鎌倉静養館
6	株式会社ルミネウイング大船	41	東日本旅客鉄道株式会社鎌倉駅
7	江ノ島電鉄株式会社	42	鎌倉婦人子供会館
8	株式会社イトーヨーカドー大船店	43	グランダ深沢・鎌倉
9	鎌倉学園中学校高等学校	44	パタゴニア・インターナショナル・インク
10	由比ガ浜地下駐車場	45	深沢幼稚園アワーキッズ鎌倉分園
11	笛田公園	46	アワーキッズ鎌倉本園
12	鎌倉プリンスホテル	47	グランダ鎌倉山
13	ダイヤモンド鎌倉別邸ソサエティ	48	湘南・横浜若者サポートステーション
14	カトリック雪ノ下教会	49	日本私立学校振興・共済事業団 鎌倉保養所あじさい荘
15	コーナン鎌倉大船モール	50	特別養護老人ホーム リビエラテラス鎌倉
16	鎌倉パークホテル	51	鎌倉彫協同組合
17	長谷寺	52	株式会社大倉製作所
18	建長寺	53	鎌倉宮カントリーテニスクラブ
19	三菱電機株式会社情報技術総合研究所	54	鎌倉小町商店会
20	富士見町町内会	55	クロスハート十二所・鎌倉
21	鶴岡八幡宮	56	福村歯科
22	鎌倉宮	57	相鉄フレッサイン鎌倉大船駅笠間口
23	公益財団法人鎌倉市公園協会	58	おおぞら幼稚園
24	東日本旅客鉄道株式会社大船駅	59	又吉総合歯科医院
25	シンロイヒ株式会社	60	神奈川県立大船高等学校
26	カーブス大船	61	湘南鎌倉人工関節センター
27	ミハル通信株式会社	62	和風レストランとんでん北鎌倉店
28	鎌倉税務署	63	株式会社富士住建鎌倉ショールーム
29	株式会社ベネッセスタイルケア鎌倉山荘	64	極真会館湘南支部大船道場
30	玉縄幼稚園	65	しろた歯科
31	障害福祉サービス事業所工房ひしめき	66	ホテルメッツかまくら大船
32	二階堂親和会	67	介護老人福祉施設ラベ鎌倉
33	今泉内町内会	68	鎌倉パブリックゴルフ場
34	東京ガスエネワーク株式会社 東京ガスライフバル湘南 鎌倉店	69	鎌倉カントリークラブ
35	東急ストア鎌倉店	70	株式会社江ノ電バス鎌倉営業所

71	岩瀬保育園	106	鎌倉広町緑地管理事務所
72	ココファンメゾン鎌倉山	107	グループホーム小袋谷3・4
73	特別養護老人ホームふれあいの泉	108	明照フラワーガーデン保育園
74	こもれび山崎温水プール	109	林歯科クリニック
75	報国寺	110	湘南モノレール株式会社
76	クリエイトSD鎌倉材木座店	111	岡澤道場サイクロンジム大船
77	鎌倉女学院	112	鎌倉松原庵
78	エルダーホームケア西鎌倉	113	大東建託リーシング株式会社大船店
79	円覚寺	114	花物語かまくら
80	きしろホーム	115	鎌倉市シルバー人材センター
81	葬祭の板橋 大船ほうさい殿	116	雪ノ下体操教室
82	鎌倉児童ホーム	117	株式会社斉藤建設
83	鎌倉ローンテニス倶楽部	118	看護小規模多機能ホーム 聖テレジア
84	トヨタモビリティ神奈川鎌倉深沢店		
85	スタンレーサーフサイド		
86	鎌倉霊園		
87	寺分保育園		
88	トヨタモビリティ神奈川大船笠間店		
89	龍口明神社		
90	株式会社横浜銀行鎌倉支店		
91	巴機械工業株式会社		
92	神奈川県水難救済会 腰越救難所		
93	鎌倉早見美容芸術専門学校		
94	北鎌倉女子学園中学校高等学校		
95	かいひん荘鎌倉		
96	ケアホーム鎌倉深沢		
97	神奈川県企業庁鎌倉水道営業所		
98	Fit Care MART鎌倉今泉店		
99	北鎌倉商栄会		
100	カトリック大船教会		
101	ショートステイパイル		
102	グループホームふあいと今泉の里		
103	出張美容 LOCO～ロコ～		
104	成福寺		
105	レーベンスガルテン山崎自治会		

指令情報



高機能消防指令センター機器・通信機器一覧表

令和8年(2026年)4月1日現在

高機能消防指令センター機器				
種 別		数 量	種 別	数 量
指令室設置機器	指令台	3台	気象webサーバ	1式
	指揮台	1台	支援情報サーバ	1式
	無線統制台	1台	長時間録音装置	1台
	表示盤装置	1式	順次指令装置	1台
	119番通報補助電話	2台	災害案内装置（テレホンサービス）	1台
	119番非常時受付電話	5台	FAX119受信装置	1式
	指令制御装置（非常系含む）	1式	Eメール119受信装置	1式
	自動出動指定装置（非常系含む）	1式	NET119・映像通報受信装置	1式
	システム管理サーバ	1式	直流電源装置	1式
	ネットワーク監視サーバ	1式	無停電電源装置	1式
	セキュリティサーバ	1式		
課署所設置機器	署所端末装置	8式	無停電電源装置	9式
	指令情報出力装置	8式	非常用発動発電機	5式
	署所放送用設備	8式	気象観測装置	2式
	車両運用端末装置	28式	支援情報端末装置	94台
	情報共有端末	9式		
	駆け込み通報装置	8式		

119番着信回線			
種 別	数 量	説 明	
119番着信回線	12本	119番通報を受信する回線です。 2回線設置し、12本の119番回線の受信に対応します。	
他市消防局（本部）転送送受信回線	4本	他市消防から転送された119通報を送受信する回線です。 1回線設置し、4本の転送送受信に対応します。	
非常用回線	2本	指令センターまたは平常時の受信回線が使用不能になった場合 119番通報を受信するための回線です	
非常時迂回用回線	2本	指令センターの機能が完全停止した場合に、鎌倉消防署で 119番通報を受信するための回線です。	

その他主要回線			
種 別	数 量	説 明	
指令用回線	8本	署所に指令情報を送出するためのネットワーク（専用線）回線です。	
災害案内用回線	10本	消防テレホンサービス（0467-43-4119）情報発信用の回線です。 1回線設置し、10本の同時案内に対応します。	

その他通信網					
種 別		数 量	種 別		数 量
市	鎌倉市防災行政用無線	1式	県	県防災行政通信網端末（ラインワークス設備含む）	1式
	M C A 無線	1式		神奈川県消防救急デジタル無線共通波設備	1式
	衛星携帯電話	1式	国	J－ALERT(全国瞬時警報システム)	1式
				Em－Net（緊急情報ネットワークシステム）	1式

無線通信施設一覽表

令和8年(2026年)4月1日現在

種 別			局数	配 置 場 所	
基 地 局			2局	野村総研跡地	活動波1.2
					防災相互波
					主運用波
					統制波1.2.3
				七里ガ浜出張所	活動波3
固 定 局		0.25W	2局	消防本部・野村	指令室・基地局通信用
陸 上 移 動 局	可 搬 型	5W	2局	鎌 倉 消 防 署	1台
				大 船 消 防 署	1台
	車 載 型	5W・10W	38局	消 防 本 部	5台
				各 署 所	33台
	携 帯 型	1W・5W	26局	消防本部（指令情報課）	10台
				各 署 所	16台
	署活動用携帯型	1W	38局	消防本部（指令情報課）	2台
				各 署 所	36台
卓 上 型	5W	7局	各 署 所	7台	

無線機（陸上移動局）及び車載等携帯電話配置場所

配 置 場 所	可搬型	車 載 型	携 帯 型	署活動用	卓上型	携 帯 電 話	
	5W	5W・10W	1W・5W	1W	5W		
消防本部		5台	10台	2台		8台	消防本部各課 衛星携帯・Eメール119受信用
鎌倉消防署	1台	7台	5台	8台	1台	6台	鎌倉隊・鎌倉救急隊・署長執務室 鎌倉指揮車(水上バイク)・衛星携帯
腰越出張所		2台	1台	3台	1台	3台	腰越隊・腰越救急隊
深沢出張所		4台	1台	3台	1台	3台	鎌倉救助隊・深沢救急隊
浄明寺出張所		3台	1台	3台	1台	3台	浄明寺隊・浄明寺救急隊
七里ガ浜出張所		3台	1台	3台	1台	3台	七里ガ浜隊・七里ガ浜救急隊
大船消防署	1台	9台	5台	10台		6台	大船隊・大船救助隊・大船救急隊 大船指揮車・署長執務室
玉縄出張所		3台	1台	3台	1台	3台	玉縄隊・玉縄救急隊
今泉出張所		2台	1台	3台	1台	3台	今泉隊・今泉救急隊
合 計	2台	38台	26台	38台	7台	38台	

無線機搭載周波数

種 別		周波数	基 地 局	陸 上 移 動 局			
				可 搬 型	車 載 型	携 帯 型	卓上型
活動波	活動波1	非公開	1	2	38	18	7
	活動波2	非公開	1	2	38	18	7
	活動波3	非公開	1	2	38	18	7
共通波	統制波1	非公開	1	2	38	18	7
	統制波2	非公開	1	2	38	18	7
	統制波3	非公開	1	2	38	18	7
	主運用波	非公開	1	2	38	18	7
	防災相互波	非公開	1	0	38	8	0
署活動波	1ch, 2ch	鎌倉専用波	0	0	0	38	0
	3ch	関東共通波					
	4ch	防災相互波					
	5ch～	緊急消防援助隊用 (G4, G10) うち2機はG1～G17まで使用可能					

119番受信状況

令和7年

月別	回線種別 小計	火災	救急	救助	その他の害	試験	いたずら	まちがい	その他	合計
1	加入電話	※1								
	I P 電話	※1								
	携帯電話	※1								
	小計	5	1,145	1	2	17	8	89	174	1,441
2	加入電話	※1								
	I P 電話	※1								
	携帯電話	※1								
	小計	4	1,088	1	6	132	7	62	250	1,550
3	加入電話	1	133	2	4	14		11	15	180
	I P 電話	2	396		5	16	1	12	43	475
	携帯電話		526	1	9	14	9	47	126	732
	小計	3	1,055	3	18	44	10	70	184	1,387
4	加入電話		139	1	2	9	2	8	22	183
	I P 電話		345	1	3	7		13	15	384
	携帯電話	3	481	1	6	13	1	41	135	681
	小計	3	965	3	11	29	3	62	172	1,248
5	加入電話		119	2	8	10		2	15	156
	I P 電話		363		2	4		9	18	396
	携帯電話	2	434	1	10	8	3	70	115	643
	小計	2	916	3	20	22	3	81	148	1,195
6	加入電話		125	1	1	6	4	7	29	173
	I P 電話		309		1	12		9	23	354
	携帯電話	1	522	1	6	1	1	68	119	719
	小計	1	956	2	8	19	5	84	171	1,246
7	加入電話	2	134	1	2	10	4	1	38	192
	I P 電話		402		2	7	1	7	36	455
	携帯電話		629	1	6	19	3	73	167	898
	小計	2	1,165	2	10	36	8	81	241	1,545
8	加入電話	2	145		4	7	5	11	30	204
	I P 電話		394		1	7		4	41	447
	携帯電話		570	2	9	3		71	141	796
	小計	2	1,109	2	14	17	5	86	212	1,447
9	加入電話		99		8	10	5	6	32	160
	I P 電話		354	2	5	5	2	10	36	414
	携帯電話	3	516	4	16	6	2	64	150	761
	小計	3	969	6	29	21	9	80	218	1,335
10	加入電話		126	2	8	24	6	10	28	204
	I P 電話		364		3	6	8	2	30	413
	携帯電話	1	515		8	9	7	54	109	703
	小計	1	1,005	2	19	39	21	66	167	1,320
11	加入電話		135		5	13	12	4	29	198
	I P 電話		367		1	13	22	6	49	458
	携帯電話	3	534		7	6	9	44	206	809
	小計	3	1,036		13	32	43	54	284	1,465
12	加入電話	1	131	1	3	9	2	13	28	188
	I P 電話		410		2	11	9	5	43	480
	携帯電話	2	517		8	8	11	51	135	732
	小計	3	1,058	1	13	28	22	69	206	1,400
加入電話		6	1,286	10	45	112	40	73	266	1,838
I P 電話		2	3,704	3	25	88	43	77	334	4,276
携帯電話		15	5,244	11	85	87	46	583	1,403	7,474
合計(※2)		32	12,467	26	163	436	144	884	2,427	16,579

※1 高機能消防指令センター全面更新に伴い、回線種別は未記入としています

※2 1月及び2月は小計を合計に計上しています。

消防本部・大船消防署 年間気象観測データ（令和7年）

【月別データ】

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
風 向 ・ 風 速	最 多 風 向		北北東	北北東	北北東	南	南	南	南	南	南	北北東	北北東	北北東
	平 均 風 速(m/s)		2.2	2.4	2.9	3.0	3.0	2.9	3.3	3.0	2.8	2.6	1.8	2.0
	最大瞬間	風 向	西南西	南西	南	南南西	南南西	南	南南西	南南西	南南西	北	南南西	南西
		風 速 (m/s)	17.4	19.2	17.4	19.1	19.1	17.8	15.8	18.1	17.0	17.7	14.0	17.4
		計 測 日	1月15日	2月5日	3月28日	4月15日	5月17日	6月15日	7月15日	8月10日	9月5日	10月9日	11月28日	12月11日
		計測時刻	13:37	15:43	3:39	14:09	14:45	2:24	11:38	13:24	11:21	8:25	2:56	18:26
氣 温 (℃)			7.3	6.7	11.0	15.4	19.2	24.3	27.6	28.8	26.4	19.0	13.3	9.1
相 对 湿 度 (%)			49.6	44.6	62.4	70.5	74.7	80.7	81.2	77.4	77.8	74.8	62.3	59.7
実 効 湿 度 (%)			56.2	44.3	60.4	70.4	73.6	80.5	81.8	76.9	78.4	75.1	62.6	60.0
気 圧 (hPa)			1013.5	1011.6	1012.8	1009.1	1009.8	1007.4	1008.6	1007.5	1011.2	1016.7	1015.5	1015.1
雨 量 (mm)			30.0	11.5	142.5	128.5	231.0	126.0	64.5	18.5	231.5	143.0	13.5	44.5
累 計 雨 量 (mm)			30.0	41.5	184.0	312.5	543.5	669.5	734.0	752.5	984.0	1127.0	1140.5	1185.0
降雨 (日数)		95	2	3	14	14	13	8	7	5	8	12	2	7

*気温・相対湿度・実効湿度・気圧は1か月の平均値。

【年間データ】

観 測 状 況	観測データ	観 測 日 時	観 測 状 況	観測データ	観 測 日 時
最大瞬間風速 (m/s)	19.2	2月5日 15時43分	最大実効湿度 (%)	86.5	7月17日 0時00分
最 大 瞬 間 風 向	南西		最低実効湿度 (%)	34.5	2月22日 0時00分
平 均 風 速 (m/s)	2.7	5月17日 15時02分	平均実効湿度 (%)	68.4	9月5日
最 多 風 向	北北東		最 大 気 圧 (hPa)	1033.1	12月23日 8時44分
最大平均風速 (m/s)	10.7	5月17日 15時02分	最 低 気 圧 (hPa)	989.9	4月15日 16時27分
最 大 平 均 風 向	南		平 均 気 圧 (hPa)	1013.9	9月5日
最 高 気 温 (℃)	35.6	8月6日 13時11分	最 大 日 雨 量 (mm)	190.0	
最 低 気 温 (℃)	-2.5	2月20日 6時42分	年 間 総 雨 量 (mm)	1185.0	9月5日
平 均 気 温 (℃)	17.3	12月21日 8時17分	降 雨 日 数 (日)	95	
最大相対湿度 (%)	97.8				
最低相対湿度 (%)	0.0	2月18日 19時12分			
平均相対湿度 (%)	68.0	12月21日 8時17分			

鎌倉消防署 年間気象観測データ（令和7年）

【月別データ】

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
風 向 ・ 風 速	最 多 風 向		北北東	北	北	南西	南西	南西	南西	南南西	南西	北北東	北北東	北北東
	平 均 風 速(m/s)		2.9	3.0	3.4	3.7	3.5	3.4	4.1	3.6	3.2	3.1	2.5	2.8
	最大瞬間	風 向	南西	西	南西	南西	南南西	南南西	南南東	南南西	北	北北東	南南西	西南西
		風 速 (m/s)	18.3	26.6	17.9	16.9	20.7	18.7	18.6	17.7	17.4	17.5	14.9	18.6
		計 測 日	1月9日	2月7日	3月28日	4月15日	5月17日	6月14日	7月15日	8月11日	9月5日	10月9日	11月1日	12月11日
		計測時刻	14:25	19:00	2:34	15:13	15:24	23:14	12:59	10:14	16:10	8:20	2:22	21:52
気 温 (℃)			7.3	6.8	10.8	15.2	18.7	23.7	27.2	28.0	26.0	18.9	13.5	9.6
相 対 湿 度 (%)			49.7	44.9	64.9	73.7	78.8	85.6	85.5	84.7	82.2	76.4	62.0	58.1
実 効 湿 度 (%)			50.5	44.6	62.7	73.5	78.0	84.9	86.3	83.8	83.2	77.0	62.5	58.6
気 圧 (hPa)			1014.0	1012.0	1013.2	1009.5	1010.3	1007.9	1009.2	1008.1	1011.8	1017.1	1015.9	1015.5
雨 量 (mm)			33.0	13.5	135.5	126.0	221.5	121.0	57.5	19.5	293.0	146.5	11.5	55.0
累 計 雨 量 (mm)			33.0	46.5	182.0	308.0	529.5	650.5	708.0	727.5	1020.5	1167.0	1178.5	1233.5
降雨 (日数)		102	5	3	15	13	12	9	7	6	10	14	2	6

*気温・相対湿度・実効湿度・気圧は1か月の平均値。

【年間データ】

観測状況	観測データ	観測日時	観測状況	観測データ	観測日時
最大瞬間風速（m/s）	20.7	5月17日 15時24分	最大実効湿度（％）	90.6	6月26日 0時00分
最大瞬間風向	南南西		最低実効湿度（％）	34.6	2月25日 0時00分
平均風速（m/s）	3.3		平均実効湿度（％）	70.5	
最多風向	北北東		最大気圧（hPa）	1032.8	12月23日 8時46分
最大平均風速（m/s）	13.2	5月17日 15時40分	最低気圧（hPa）	990.3	4月15日 16時44分
最大平均風向	南南西		平均気圧（hPa）	1013.9	
最高気温（℃）	35.0	8月3日 13時52分	最大日雨量（mm）	244.0	9月5日
最低気温（℃）	-1.8	2月20日 6時24分	年間総雨量（mm）	1233.5	
平均気温（℃）	17.1		降雨日数（日）	102	
最大相対湿度（％）	98.7	12月21日 7時35分			
最低相対湿度（％）	0.0	1月28日 11時16分			
平均相対湿度（％）	70.5				

年間気象観測データ（令和7年）

【天気概要】

※各日24時間の平均天候

項目／月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
快晴	5	2	0	1	1	0	0	0	0	1	1	3	14
晴	21	19	17	14	11	15	20	23	13	7	19	16	195
曇	4	6	6	11	14	11	8	5	16	13	8	11	113
雨	0	1	8	4	5	4	3	3	1	9	2	1	41
雪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
霧	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2

【月別気象警報・注意報発表状況】

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
警報	暴風雪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大雨	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	洪水	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	暴風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大雪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	波浪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高潮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
注意報	風雪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大雨	0	0	1	1	3	1	2	0	2	3	0	0	13
	洪水	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
	強風	8	9	12	9	11	5	2	4	8	13	10	13	104
	大雪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	波浪	3	3	6	3	5	1	2	1	1	3	0	4	32
	高潮	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	着氷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雷	4	5	6	7	7	5	9	13	11	3	5	3	78
	融雪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	濃霧	0	0	2	4	3	2	2	0	0	1	1	0	15
	乾燥	3	3	3	1	0	0	0	0	0	0	1	4	15
	なだれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	低温	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	霜	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	着雪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

防 予



査察対象物及び防火管理者選任状況

令和8年4月1日 現在

			査察対象物数 (敷地)	防火管理者選任状況数				
				選任義務 対象数	一部選任 対象数	完全選任 対象数	一部選任率 (%)	完全選任率 (%)
合 計			4547	1203	142	995	11.80%	82.71%
1	イ	劇場・映画館・演芸場・観覧場	1	1	0	1	0.00%	100.00%
	ロ	公会堂・集会場	25	17	0	15	0.00%	88.24%
2	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ等	0	0	0	0	0.00%	0.00%
	ロ	遊技場・ダンスホール	3	3	0	3	0.00%	100.00%
	ハ	風俗営業等	0	0	0	0	0.00%	0.00%
	ニ	カラオケボックス等	2	2	0	2	0.00%	100.00%
3	イ	待合・料理店等	1	1	0	1	0.00%	100.00%
	ロ	飲食店	257	79	8	65	10.13%	82.28%
4		百貨店・マーケット・物品販売業・展示場	141	82	2	78	2.44%	95.12%
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所等	188	20	0	20	0.00%	100.00%
	ロ	寄宿舍・下宿・共同住宅	2043	185	0	170	0.00%	91.89%
6	イ	(1) 病院	5	5	0	5	0.00%	100.00%
		(2) 有床診療所	2	2	0	2	0.00%	100.00%
		(3) (1)以外の病院・(2)以外の有床診療所・助産所	6	5	0	5	0.00%	100.00%
		(4) その他診療所・その他助産所	34	10	0	10	0.00%	100.00%
	ロ	(1) 高齢者施設	58	57	0	57	0.00%	100.00%
		(2) 生活保護者施設	0	0	0	0	0.00%	0.00%
		(3) 児童施設	0	0	0	0	0.00%	0.00%
		(4) 障害児施設	0	0	0	0	0.00%	0.00%
		(5) 障害者施設	3	2	0	2	0.00%	100.00%
	ハ	(1) 高齢者施設	26	17	0	17	0.00%	100.00%
		(2) 生活保護者施設	0	0	0	0	0.00%	0.00%
		(3) 児童施設	35	31	0	31	0.00%	100.00%
		(4) 障害児施設	3	1	0	1	0.00%	100.00%
		(5) 障害者施設	28	4	1	3	25.00%	75.00%
	ニ	幼稚園・特別支援学校	17	17	0	17	0.00%	100.00%
7		小・中・高・大学・各種学校等	42	41	0	41	0.00%	100.00%
8		図書館・博物館・美術館等	10	7	0	7	0.00%	100.00%
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場・熱気浴場等	2	1	0	1	0.00%	100.00%
	ロ	イ以外の公衆浴場	2	1	0	1	0.00%	100.00%
10		車両の停車場等	1	0	0	0	0.00%	0.00%
11		神社・寺院・教会等	90	43	0	42	0.00%	97.67%
12	イ	工場・作業場	88	17	0	17	0.00%	100.00%
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ	0	0	0	0	0.00%	0.00%
13	イ	自動車車庫・駐車場	10	0	0	0	0.00%	0.00%
	ロ	飛行機・回転翼航空機の格納庫	0	0	0	0	0.00%	0.00%
14		倉庫	38	2	0	2	0.00%	100.00%
15		前各項に該当しない事業場	246	84	0	82	0.00%	97.62%
16	イ	複合用途（特定用途を含む）	945	443	128	277	28.89%	62.53%
	ロ	イ以外の複合用途	179	19	3	16	15.79%	84.21%
17		文化財施設等	16	4	0	4	0.00%	100.00%
20		総務省令で定める舟車	0	0	0	0	0.00%	0.00%

中高層建築物一覽表

令和8年(2026年)4月1日現在

階数 署所別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	合計
鎌倉	412	123	25	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	563
腰越	80	10	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	94
深沢	111	74	52	8	5	6	1	0	0	0	0	0	0	257
浄明寺	66	18	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	87
七里ガ浜	23	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
大船	376	163	49	39	32	7	5	9	0	0	0	0	0	680
玉縄	83	50	12	3	4	2	4	5	3	1	0	1	1	169
今泉	63	13	4	2	6	2	1	1	0	0	0	0	0	92
合計	1214	458	148	55	48	17	11	15	3	1	0	1	1	1972

建築確認申請消防同意状況(業態別)

令和7年度

業態別			区分	合 件	計 数	新 件	築 数	増 件	築 数	改 件	築 数	移 件	築 数	用途変 更件数	大規模 の修繕	模様替 件数	そ の 他
合 計				347		325		20		0		0		1	1	0	0
1	イ	劇場・映画館・演芸場		0		0		0		0		0		0	0	0	0
	ロ	公会堂・集会場		0		0		0		0		0		0	0	0	0
2	イ	キャバレー・カフェ・ナイトクラブ等		0		0		0		0		0		0	0	0	0
	ロ	遊技場・ダンスホール		3		3		0		0		0		0	0	0	0
	ハ	風俗営業等		0		0		0		0		0		0	0	0	0
	ニ	カラオケボックス等		0		0		0		0		0		0	0	0	0
3	イ	待合・料理店等		0		0		0		0		0		0	0	0	0
	ロ	飲食店		14		14		0		0		0		0	0	0	0
4		百貨店・マーケット・物品販売		3		3		0		0		0		0	0	0	0
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所		2		2		0		0		0		0	0	0	0
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅		44		44		0		0		0		0	0	0	0
6	イ	(1)	病院	0		0		0		0		0		0	0	0	0
		(2)	有床診療所	0		0		0		0		0		0	0	0	0
		(3)	(1)以外の病院・(1)以外の有床診療所・助産所	0		0		0		0		0		0	0	0	0
		(4)	その他診療所・その他助産所	2		2		0		0		0		0	0	0	0
	ロ	(1)	高齢者施設	4		4		0		0		0		0	0	0	0
		(2)	生活保護者施設	0		0		0		0		0		0	0	0	0
		(3)	児童施設	0		0		0		0		0		0	0	0	0
		(4)	障害児施設	0		0		0		0		0		0	0	0	0
		(5)	障害者施設	1		1		0		0		0		0	0	0	0
	ハ	(1)	高齢者施設	1		1		0		0		0		0	0	0	0
		(2)	生活保護者施設	0		0		0		0		0		0	0	0	0
		(3)	児童施設	3		3		0		0		0		0	0	0	0
		(4)	障害児施設	0		0		0		0		0		0	0	0	0
		(5)	障害者施設	0		0		0		0		0		0	0	0	0
	ニ	幼稚園・養護学校		0		0		0		0		0		0	0	0	0
7		小・中・高・大学・各種学校		1		0		0		0		0		0	1	0	0
8		図書館・博物館・美術館		1		0		1		0		0		0	0	0	0
9	イ	公衆浴場のうち・蒸気浴場・熱気浴場		1		1		0		0		0		0	0	0	0
	ロ	イ以外の公衆浴場		0		0		0		0		0		0	0	0	0
10		車両の停車場		0		0		0		0		0		0	0	0	0
11		神社・寺院・協会等		1		0		1		0		0		0	0	0	0
12	イ	工場・作業場		4		0		4		0		0		0	0	0	0
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ		0		0		0		0		0		0	0	0	0
13	イ	自動車車庫・駐車場		0		0		0		0		0		0	0	0	0
	ロ	飛行機等の格納庫		0		0		0		0		0		0	0	0	0
14		倉庫		1		1		0		0		0		0	0	0	0
15	①	官公署		1		1		0		0		0		0	0	0	0
	②	事務所等		1		0		1		0		0		0	0	0	0
	③	その他		10		10		0		0		0		0	0	0	0
16	イ	複合用途(特定用途を含む)		19		14		4		0		0		1	0	0	0
	ロ	イ以外の複合防火対象物		3		3		0		0		0		0	0	0	0
16の2、3		地下街、準地下街		0		0		0		0		0		0	0	0	0
17		文化財施設等		0		0		0		0		0		0	0	0	0
専 用 住 宅				227		218		9		0		0		0	0	0	0

建築確認申請消防同意状況（月別）

（特殊建築物・住宅）

令和7年度(2025年度)

区分 月別	合計	新築	増築	改築	移転	用途変更	大規模の 修繕	大規模の 模様替	その他
合計	347	325	20	0	0	1	1	0	0
4月	40	40	1	0	0	0	0	0	0
5月	48	46	1	0	0	0	1	0	0
6月	34	30	4	0	0	0	0	0	0
7月	34	32	2	0	0	0	0	0	0
8月	16	14	2	0	0	0	0	0	0
9月	35	34	1	0	0	0	0	0	0
10月	34	31	3	0	0	0	0	0	0
11月	28	25	1	0	0	1	0	0	0
12月	20	19	1	0	0	0	0	0	0
1月	17	15	2	0	0	0	0	0	0
2月	23	22	1	0	0	0	0	0	0
3月	18	17	1	0	0	0	0	0	0

建築確認申請消防通知状況

（特殊建築物・住宅・建築設備）

令和7年度(2025年度)

区分	合計	新築	増築	改築	移転	用途変更	大規模の 修繕	大規模の 模様替	その他
合計	619	614	5	0	0	0	0	0	0
指定確認 検査機関	617	612	5	0	0	0	0	0	0
特定 行政庁	2	2	0	0	0	0	0	0	0

建築確認申請消防通知状況（月別）

（特殊建築物・住宅・建築設備）

令和7年度(2025年度)

区分 月別	合計	新築	増築	改築	移転	用途変更	大規模の 修繕	大規模の 模様替	その他
合計	619	614	5	0	0	0	0	0	0
4月	66	63	3	0	0	0	0	0	0
5月	46	46	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	116	115	1	0	0	0	0	0	0
8月	34	34	0	0	0	0	0	0	0
9月	45	45	0	0	0	0	0	0	0
10月	49	48	1	0	0	0	0	0	0
11月	47	47	0	0	0	0	0	0	0
12月	25	25	0	0	0	0	0	0	0
1月	80	80	0	0	0	0	0	0	0
2月	46	46	0	0	0	0	0	0	0
3月	65	65	0	0	0	0	0	0	0

危険物数量及び類別状況

令和7年度(2025年)現在

製造所の 区分		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
				屋 内 貯 蔵	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外 貯 蔵	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売	第 二 種 販 売	一 般 取 扱 所
施 設 数 計		84	1	14	1	4	13	1	17	0	13	2	0	18
数 量 別	5倍以下	47	0	6	0	4	8	1	17	0	0	2	0	9
	5倍を超え10倍以下	11	0	2	0	0	3	0	0	0	1	0	0	5
	10倍を超え50倍以下	16	1	6	0	0	2	0	0	0	3	0	0	4
	50倍を超え100倍以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100倍を超え150倍以下	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	150倍を超え200倍以下	3	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	200倍を超え1,000倍以下	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
	1,000倍を超え5,000倍以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5,000倍を超え10,000倍以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10,000倍を超えるもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
類 別	単	第 1 類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		第 2 類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		第 3 類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	独	第 4 類	83	1	13	1	4	13	1	17	0	13	2	18
		第 5 類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		第 6 類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	混 在		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

製造所等別の許可・完成検査及び廃止届の状況

令和7年度(2025年)現在

区 分	許 可			完成検査			廃止届
	設置	(転 入)		設置	変更	転入	
		変 更 施 設	移動タンク常置場所				
合 計	0	7	0	1	6	0	13

危険物施設管内別状況

令和7年度(2025年)現在

製造所の 管内別		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
				屋 内 貯 蔵	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外 貯 蔵	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売	第 二 種 販 売	一 般 取 扱 所
合 計		84	1	14	1	4	13	1	17	0	13	2	0	18
鎌倉消防署		11	0	0	0	2	2	0	0	0	3	1	0	3
腰越出張所		3	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
深沢出張所		11	0	7	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0
浄明寺出張所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
七里ガ浜出張所		5	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
大船消防署		20	1	4	0	1	4	0	1	0	3	1	0	5
玉縄出張所		11	0	1	0	0	4	0	0	0	2	0	0	4
今泉出張所		23	0	1	1	0	1	1	15	0	1	0	0	3

文化財保有社寺防災施設

令和8年(2026年)4月1日 現在 (総数 75 対象)

◎印 煙感知器作動により扉が自動閉鎖するもの

区分	警報施設		防 災 施 設					文化財
	自火報	非常ベル	防火水槽	消火栓	消火器	収蔵庫	その他	
妙法寺	○				○			建造物
鎌倉彫会館	○				○			収容物
妙本寺	○	○			○	○		建造物
長勝寺	○		○	○	○			建造物
浄光明寺	○		○	○	○	○		建造物
亀谷山壽福金剛禅寺 (寿福寺)	○				○			建造物
英勝寺	○		○		○			建造物
光明寺	○	○	○	○	○			建造物
鶴岡八幡宮	○		○	○	○	○	放水銃	建造物
鷲峰山 覚園寺	○	○	○	○	○			建造物
杉本寺	○			○	○	○		建造物
浄妙寺		○			○			収容物
一般財団法人 一条恵観山荘	○		○	○	○		ドレンジャー放水銃	建造物
荏柄天神社	○	○		○	○		放水銃	建造物
建長寺	○	○	○	○	○	○		建造物
円覚寺	○	○		○	○	○	放水銃	建造物
常楽寺	○		○	○	○		放水銃	建造物
熊野神社	○				○			建造物
龍寶寺	○	○			○			建造物
佛日庵	○				○			収容物
妙隆寺		○			○			収容物
【国非】五所神社					○			収容物
来迎寺	○				○			収容物
大町八雲神社					○	○		収容物
安養院	○				○			収容物
本覚寺	○	○			○			収容物
薬王寺					○			収容物
蓮乗院		○			○			収容物
海蔵寺			○		○			収容物
教恩寺		○			○			収容物
別願寺		○			○			収容物
【国非】向福寺					○			収容物
九品寺					○			収容物
安国論寺		○			○			収容物
高德院	○				○	○		収容物
長谷寺	○	○	○	○	○	◎		収容物
光則寺	○				○			収容物

文化財保有寺防災施設

令和8年(2026年)4月1日 現在 (総数 75 対象)

◎印 煙感知器作動により扉が自動閉鎖するもの

区分	警報施設		防 災 施 設					文化財
	自火報	非常ベル	防火水槽	消火栓	消火器	収蔵庫	その他	
(国非)御霊神社	○				○	○		収容物
宗教法人 法源寺			○		○			収容物
町屋天満宮					○			収容物
青蓮寺	○	○	○		○	○		収容物
大慶寺	○	○			○			収容物
鎌倉国宝館	○			○	○	◎		収容物
宝戒寺		○	○		○	○		収容物
来迎寺	○				○			収容物
西御門八雲神社					○			収容物
光触寺	○				○			収容物
明王院					○	◎		収容物
報国寺	○	○			○			収容物
瑞泉寺		○		○	○	○		収容物
成就院		○			○			収容物
極楽寺	○	○			○	○		収容物
成福寺	○	○			○			収容物
続灯庵		○			○			収容物
妙高院	○				○			収容物
公益財団法人 松ヶ岡文庫				○	○	○		収容物
東慶寺	○	○		○	○	◎		収容物
宗教法人 浄智寺	○				○			収容物
円応寺	○				○			収容物
正統院					○			収容物
山ノ内八雲神社			○		○			収容物
龍峰院	○				○			収容物
白雲庵	○	○		○	○			収容物
禪居院					○			収容物
明月院					○	○		収容物
光照寺		○			○			収容物
富陽庵		○			○			収容物
黄梅院					○			収容物
巖島神社								収容物
帰源院	○				○			収容物
北野神社					○			収容物
宗教法人 大船観音寺		○			○			収容物
円光寺	○				○			収容物
白山神社	○				○			収容物
大長寺		○			○			収容物

動力消防ポンプ現有自衛消防隊一覧

令和 8 年（2026 年） 4 月 1 日現在

区 分 対象物名	種 別 型 式	車 名	ポンプ名	級別	消火剤		隊員数	
					泡原液	消火器	専任	その他
三 菱 電 機 (株) 鎌 倉 製 作 所	消防 ポンプ車	日野 デュトロ	モリタ	A-2		有 (6 kg)		32
東レ株式会社 基 礎 研 究 所	可 搬 P456		ラビット	B-3				4
株式会社ユシロ 大 船 工 場	可 搬 P455S		ラビット	B-3		有 (6 kg)		7
三菱電機(株)情報 技術総合研究所	可 搬 P555A	スバル サンバー	ラビット	B-2		有 (6 kg)		12
(株)大倉製作所 大 船 工 場	可 搬 P455		ラビット	B-3				13

消防ポンプを保有している自衛消防組織は、5 事業所

普通消防ポンプ自動車 1 台

小型動力ポンプ 4 台

市火災予防条例等に基づく諸届出の事務取扱状況

令和7年度(2025年度)

区分 \ 部署別	消防本部	鎌倉消防署	大船消防署	計
防火対象物使用開始届書	129	164	62	355
防火対象物用途廃止届書	11	8	14	33
防火管理者選任(解任)届出書	192	99	113	404
統括防火管理者選解任届	22	2	7	31
防災管理者選解任届	11	0	0	11
統括防災管理者選解任届	1	0	0	1
消防計画届出書	193	105	126	424
全体の消防計画作成(変更)(防火)届	33	3	8	44
防災管理消防計画作成(変更)届	15	0	0	15
全体の消防計画作成(変更)(防災)届	4	0	0	4
自衛消防組織設置(変更)届	8	0	0	8
防火対象物定期点検報告届	123	2	2	127
点検報告特例認定申請	19	0	0	19
防災管理点検報告届	8	0	0	8
防災管理点検報告特例認定申請	3	0	0	3
管理権原者変更届出	0	0	0	0
消防訓練計画・結果報告書	235	581	413	1229
消防用設備等点検報告書	505	915	796	2216
表示マーク交付(更新)申請	2	0	0	2
防火基準適合通知(更新)申請	3	0	0	3
消防用設備等着工届書	349	0	0	349
消防用設備等設置届書	789	0	0	789
消防用設備等の特例適用申請書	14	0	0	14
炉・厨房設備・ボイラー設置届書	14	1	3	18
変電設備設置届書	22	6	5	33
発電設備設置届書	2	1	1	4
蓄電池設備設置届書	5	1	1	7
燃料電池発電設備設置届出書	0	0	0	0
急速充電設備設置届出書	0	0	0	0

区分 \ 部署別	消防本部	鎌倉消防署	大船消防署	計
給湯湯沸設備設置届書	0	2	3	5
乾燥設備設置届書	9	0	0	9
ヒートポンプ冷暖房機設置届書	1	0	0	1
火花を生ずる設備設置届書	0	0	0	0
放電加工機設置届書	0	0	0	0
ネオン管灯設備設置届書	0	0	0	0
サウナ設備設置届書	4	0	0	4
水素ガス充てん気球設置届書	0	0	0	0
火災と紛らわしい煙等の発するおそれのある行為の届書	0	157	113	270
煙火打上げ・仕掛け届書	1	2	2	5
催物開催届書	1	3	1	5
対象火気器具使用届書	0	93	59	152
指定洞道(新規・変更)届書	0	0	0	0
喫煙所設置届書	0	0	1	1
施行規則第25条による廃止届書	2	2	0	4
少量危険物貯蔵取扱(変更)届書	3	0	2	5
指定可燃物(変更)届書	0	0	0	0
圧縮アセチレンガス等貯蔵取扱(廃止)届書	3	4	0	7
道路工事届書	11	592	389	992
水道断減水届書	0	3	0	3
毒物・劇物貯蔵・取扱届書	0	0	0	0
核燃料物質等の貯蔵・取扱届書	0	0	0	0
喫煙・裸火使用危険物品持込み承認申請書	0	15	22	37
改善(計画)報告書	158	103	120	381
総計				8032

消防団



消 防 団 現 況

令和 8 年（2026年） 4 月1日現在

区分	消 防 団 員 現 況								小型動力 ポンプ付 積載車	防災資機材											
	合計	団長	副団長	分団長	副分団 長	部長	班長	団員		5tジャッ キ	てこ パーラ	のこぎり 万能おの	投光器 発電機	ボルトク リッパー	チェー ンソー	強 カ ライト	ヘッド ライト	デジタ ル無線 機	拡声器	ガソリン 携行缶	救命 胴衣
計	391	1	3	31	28	28	75	225	28	28	28	28	28	28	28	60	144	128	29	28	239
本団	12	1	3	3	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	4	4	14	1	0	4
第1分団	10	0	0	1	1	1	2	5	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第2分団	15	0	0	1	1	1	3	9	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第3分団	12	0	0	1	1	1	1	8	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第4分団	16	0	0	1	1	1	3	10	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第5分団	10	0	0	1	1	1	2	5	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第6分団	12	0	0	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第7分団	13	0	0	1	1	1	4	6	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第8分団	14	0	0	1	1	1	3	8	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第9分団	10	0	0	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第11分団	13	0	0	1	1	1	3	7	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第12分団	12	0	0	1	1	1	4	5	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第13分団	9	0	0	1	1	1	2	4	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第14分団	9	0	0	1	1	1	2	4	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第15分団	12	0	0	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第16分団	13	0	0	1	1	1	2	8	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第17分団	9	0	0	1	1	1	2	4	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第18分団	15	0	0	1	1	1	3	9	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第19分団	14	0	0	1	1	1	2	9	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第20分団	14	0	0	1	1	1	3	8	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	5
第21分団	20	0	0	1	1	1	4	13	1	1	1	1	1	1	1	2	5	5	1	1	11
第22分団	23	0	0	1	1	1	5	15	1	1	1	1	1	1	1	2	5	5	1	1	25
第23分団	12	0	0	1	1	1	3	6	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	13
第24分団	14	0	0	1	1	1	3	8	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	14
第25分団	11	0	0	1	1	1	2	6	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	12
第26分団	18	0	0	1	1	1	3	12	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	16
第27分団	20	0	0	1	1	1	3	14	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	16
第28分団	18	0	0	1	1	1	3	12	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	18
第29分団	11	0	0	1	1	1	3	5	1	1	1	1	1	1	1	2	5	4	1	1	15

消防団員の年齢及び実員

令和8年（2026年）4月1日現在

階級別 年齢	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
平均年齢（歳）	46.6	57.0	59.7	53.6	50.8	50.3	47.8	44.1
18歳以上20歳未満	2	0	0	0	0	0	0	2
20歳以上25歳未満	9	0	0	0	0	0	0	9
25歳以上30歳未満	12	0	0	0	0	0	0	12
30歳以上35歳未満	16	0	0	0	0	0	4	12
35歳以上40歳未満	39	0	0	0	1	2	7	29
40歳以上45歳未満	65	0	0	3	4	2	13	43
45歳以上50歳未満	83	0	0	3	7	6	19	48
50歳以上55歳未満	88	0	0	10	9	10	23	36
55歳以上60歳未満	54	1	2	10	5	6	5	25
60歳以上	23	0	1	5	2	2	5	8
合 計	391	1	3	31	28	28	76	224

消防団員の勤続年数

令和8年（2026年）4月1日現在

階級別 年数	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
平均勤続年数（年）	22.3	36.0	32.0	24.1	20.7	19.0	15.1	9.4
5年未満	81	0	0	0	0	0	2	79
5年以上10年未満	78	0	0	2	1	2	13	60
10年以上15年未満	71	0	0	1	3	6	27	34
15年以上20年未満	55	0	0	6	9	9	17	14
20年以上25年未満	44	0	0	4	10	4	9	17
25年以上30年未満	34	0	1	12	2	4	3	12
30年以上	28	1	2	6	3	3	5	8
合 計	391	1	3	31	28	28	76	224

消防団員就業状況

令和8年(2026年)4月1日現在

【就業場所】

市 内	県 内	県 外	合 計
230 人	101 人	60 人	391 人

【就業別】

区分	被用者	自営業	家族 従事者	その他	合 計
農業	0	3	5	0	8
林業・狩猟業	0	1	2	0	3
漁業水産・養殖業	2	4	2	2	10
鉱業	1	0	0	0	1
建設業	37	13	12	1	63
製造業	40	4	6	0	50
電気ガス水道業	7	3	3	0	13
運輸・通信業	18	1	0	0	19
卸売業・小売業	21	11	17	1	50
金融・保険業	7	3	0	0	10
不動産業	3	3	0	0	6
サービス業	70	12	5	1	88
公務員	10	0	0	3	13
学 生	0	0	0	4	4
その他	34	4	3	12	53
合 計	250	62	55	24	391

消防関係記念日・年中行事

- 1月 6日 消防出初式
- 1月 15日～ 1月 21日 防災ボランティア週間
- 1月 17日 防災ボランティアの日
- 1月 26日 文化財防火デー
- 3月 1日～ 3月 7日 . . . 春の全国火災予防運動
- 3月 7日 消防記念日
- 6月 1日 気象記念日
- 6月の第2週（日～土） . . . 危険物安全週間
- 7月 1日 国民安全の日
- 8月 30日～9月 9日 防災週間
- 9月 1日 防災の日
- 9月 9日を含む週の日～土 . . 救急医療週間
- 9月 9日 救急の日
- 10月 18日 統計の日
- 11月 5日 津波防災の日
- 11月 9日 119番の日
- 11月 9日～11月15日 秋の全国火災予防運動
- 12月 25日～ 1月3日 年末年始火災特別警戒

鎌倉市消防年報 令和 7 年(2025 年)版

令和 8 年発行

編集・発行 鎌倉市消防本部

〒247-0056 鎌倉市大船三丁目 5 番 10 号

電 話 0467 (44) 0119

F A X 0467 (45) 6665
